

にほんごサポートひまわり会
母語保持教育講演会報告書

外国から来て日本で子どもを育てているお父さん、お母さんへ
子どものことばを伸ばすために
一母語と日本語の教育について一

講師 大阪大学大学院言語文化研究科教授
真嶋潤子



2014年11月27日

にほんごサポートひまわり会

*この冊子は、にほんごサポートひまわり会が2014年7月6日に外国人保護者を対象に実施した母語保持教育講演会における真嶋教授の講演および質疑応答をもとに、作成したものです。

*外国人保護者向けのダイジェスト版もあります。
(中国語、スペイン語、ベトナム語と日本語の対訳)

子どものことばを伸ばすために

—母語と日本語の教育について—

大阪大学大学院言語文化研究科教授 真嶋潤子

はじめに



私は大阪大学で日本語を教えている真嶋と申します。どうぞよろしくお願い致します。最初に、大阪大学から来ている通訳のできるスタッフをご紹介します。スペイン語ができる研究員の櫻井千穂さん、中国語ができる孫成志さん、ベトナム語ができる近藤美佳さん、中国語ができるジョヒアさん、大学院生です。

今日のテーマは「子どものことばを伸ばすために—母語と日本語の教育について—」です。先に私が話をします。そのあと、言語別にグループに分かれて、質問や意見交換をしていただきます。

母語とは

皆さん「母語」はわかりますか？母語には4つのファクター（要素）があります。

- ・一番初めにおぼえたことば
- ・一番上手に話せることば
- ・一番たくさん話す、いつも使うことば
- ・自分のアイデンティティーと関係することば（私は何人ですか、誰ですか、ということと関係することば）

それが母語といえます。とても大事なことばです。

本日の内容

最初、私は母語の重要性について話します。それから、バイリンガル教育の種類について話します。母語と例えば日本語の、ふたつのことばを話すことを「バイリンガル」と申します。バイリンガルには、ふたつの言語がすごくよくできる人もいれば、ひとつはできて、ひとつはあまりできない人もいます。いろんな種類があります。それから、バイリンガルになるにはどんな要素があるかを見ます。それから、ふたつの言語の関係について説明します。

そのあと、バイリンガルになった人の例をふたつ紹介します。ひとつは国際結婚の子どもの例です。日本人と台湾人が結婚しました。そのお子さんはふたつの言語がとてもよくできます。その例を紹介します。もうひとつは中国人家庭の子どもの例です。日本語も上手になりましたし、中国語はもっとよくできるようになった例を紹介します。

最後に、お父さんお母さんに何ができるか、ということについてまとめて紹介します。

一 母語の重要性

ここは日本です。毎日日本語を使います。日本語ができれば、他のことばはもう要らないのでしょうか。それは違うと思います。例えば私は日本人です。日本語ができます。毎日日本語だけ使っています。それは大丈夫です。でも、皆さんのように外国から来られた方、またその子どもが日本語だけしか使っていないのは、すごく残念です。

数年前に朝日新聞の記者から聞きました。新聞記者は、外国の大人の方にたくさんインタビューをしました。その人たちは、日本で大きくなった人たちです。子どものときから大人になるまで、日本にいました。その人たちに、日本語でインタビューしました。みんな日本語はすごく上手です。でも、みんな母語は少ししかできません。

「子どものときに何がしたかったですか？ 何をしてほしかったですか？」と質問すると、みんな、「母語を習いたかった」「母語をもっと教えてほしかった」と言いました。その人たちは、母語を忘れてしまったので、みんなとても残念に思っています。皆さんの子どもさんは、悲しい思いをしないように、ぜひ母語も日本語もできる子どもに育ててほしいと思います。

(1) 親子・家族のきずな → 心の安定

母語が大事なのは、一番目は親子・家族のきずなのためです。お父さんやお母さんの持っていることばと同じことばでコミュニケーションすることは、とても大事です。もしお母さんが日本語があまりできないとき、子どもが日本語だけが上手になって母語ができないと、だんだんお母さんと話ができなくなります。そうすると子どもは、「お母さん、日本語下手。だめ。お母さんと話さない。日本語だけで話したい」というふうになります。

そして、お母さんは日本語が下手だからだめだと、だんだんお母さんをばかにしたり、言うことを聞かなくなります。それはすごく悲しいことです。お母さんと子どもが、将来、結婚や就職などの難しい話することば（コミュニケーション・ツール）が無くなってしまったら、とても悲しいことです。お父さんとお母さんと子どもは、話し合えることばが必要です。

母国にいるおじいさん、おばあさんと話すためのことばでもあります。それができれば、子どもの心は安定します。ですから、母語はすごく大事です。親子のきずな、家族のきずな、心の安定につながりますから、とても大事です。

(2) 学ぶ力・考える力・認知力の基礎

考える力はとても大事ですが、考えるためにはことばが要ります。ことばが無かったら、考えることはできません。考えるときには必ずことばを使います。母語で考えられる子どもは、あとで日本語でも考えることができるようになります。まず母語で考えることが、基礎的な力にはとても大事なことです。母語の力が強いほど、日本語もあとで強くなります。母語が弱い人は、日本語も弱いままのことがあります。ですから、どちらも大事ですが、特に母語が最初に大事です。学ぶ力・考える力・認知力の基礎だからです。

(3) アイデンティティーの基盤

アイデンティティーとは、あなたは誰ですか？私は誰ですか？あなたは何人^{なにじん}ですか？ という問題です。もし子どもが、「私は中国人だけれど、中国語はわからない」となったら、自分は何人かよくわからなくなってしまいます。アイデンティティーが混乱すると、不安定になってしまいます。「日本に住んでいる中国人」「日本に住んでいるアメリカ人」というように、はっきりアイデンティティーを持つことができるために、母語は大事です。

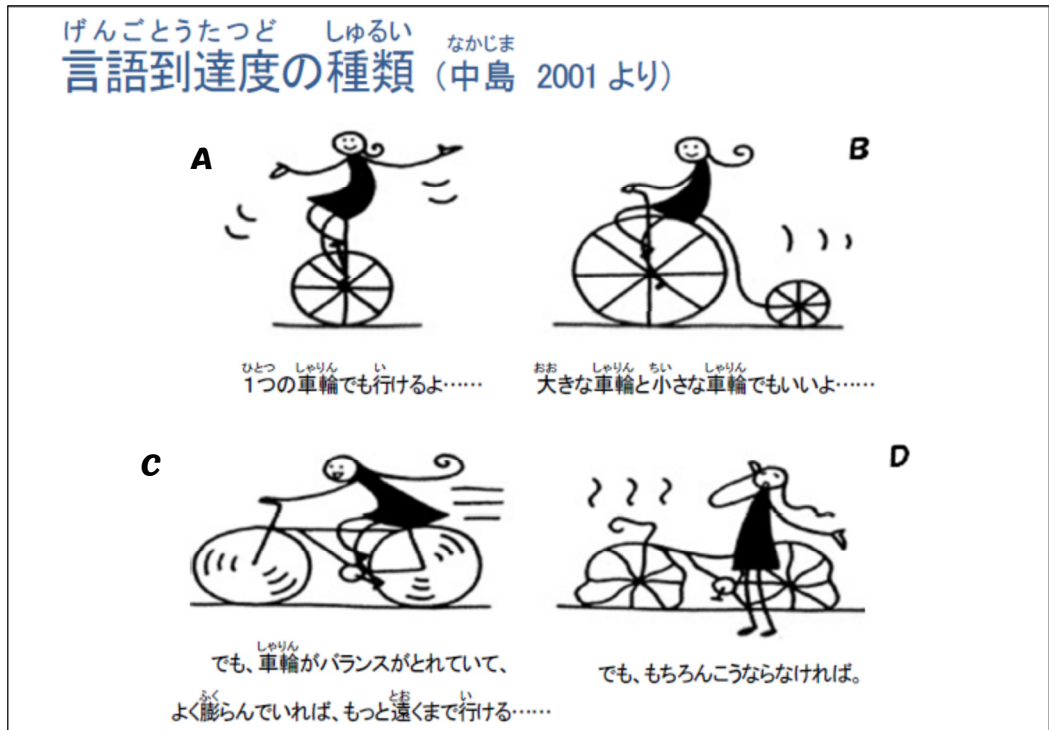
(4) 権利としての母語保障

子どもは、日本に来たいと思って来たり、日本で生まれたいと思って生まれたりしたのではありません。親が日本に来たから、一緒についてきたり日本で生まれたりしたのです。どの子ども、どの国に生まれても、母語を学んで話す権利があります。それは世界中で認められている、子どもの基本的な権利です。ですから、母語を学んではいけないとか、母語を使つてはいけないと言うことは、権利を侵害したことになります。それはしてはいけないことです。子どもの人権は、大事にしなければなりません。このように人権の意味から、母語を学ぶこと、母語を使うことは非常に大事です。

(5) 将来の居住地の選択肢（母国に住む可能性）

日本で育った子どもは、ずっと日本にいるかもしれません。毎日学校で日本語を使い、成長したら仕事で日本語だけを使うかもしれません。しかし、そうではないかもしれませんよ。将来、もしかしたら自分の国、お母さんの国に行つて、そこで仕事や勉強をするかもしれません。母語を知つておくと、子どもの選択肢が広がります。将来の居住地の選択肢として、母国に住む可能性を考えておくことは、重要だと思います。

二 バイリンガルの種類



言語到達度によるバイリンガルの種類

上の絵で、車輪はことばだと思ってください。

Aのように、ひとつのことばだけを話す人は「モノリンガル」といいます。これでも大丈夫です。

Bの前の大きい車輪は母語、後ろの小さい車輪は第二言語です。ふたつのことばのうち、一方がよくできることを「ドミナント・バイリンガル」といいます。これもいいです。ひとつの車輪よりも、ふたつの車輪の方が遠くへ行けます。

Cのように車輪がふたつとも大きかったら、もっと速く、もっと遠くへ行くことができます。とてもいい、便利な自転車です。母語（第一言語）と第二言語のどちらもよくできることを、「バランス・バイリンガル」と呼びます。

でも、Dのように、ふたつの言語がどちらもできなかつたら、どこへも行けません。母語も第二言語もどちらも少ししかできない。それだと、うまく話ができないし、コミュニケーションも取れません。これを「ダブル・リミテッド・バイリンガル」と呼んでいます。これはとても困ります。こうなるのは、ふたつのことばを途中で混ぜてしまったり、途中で両方をやめてしまったりしたときになるようです。これはとても困りますから、ならないようにしないといいけません。

せめてB、できればCを目指しましょう。

ことばの4技能から見たバイリンガルの種類

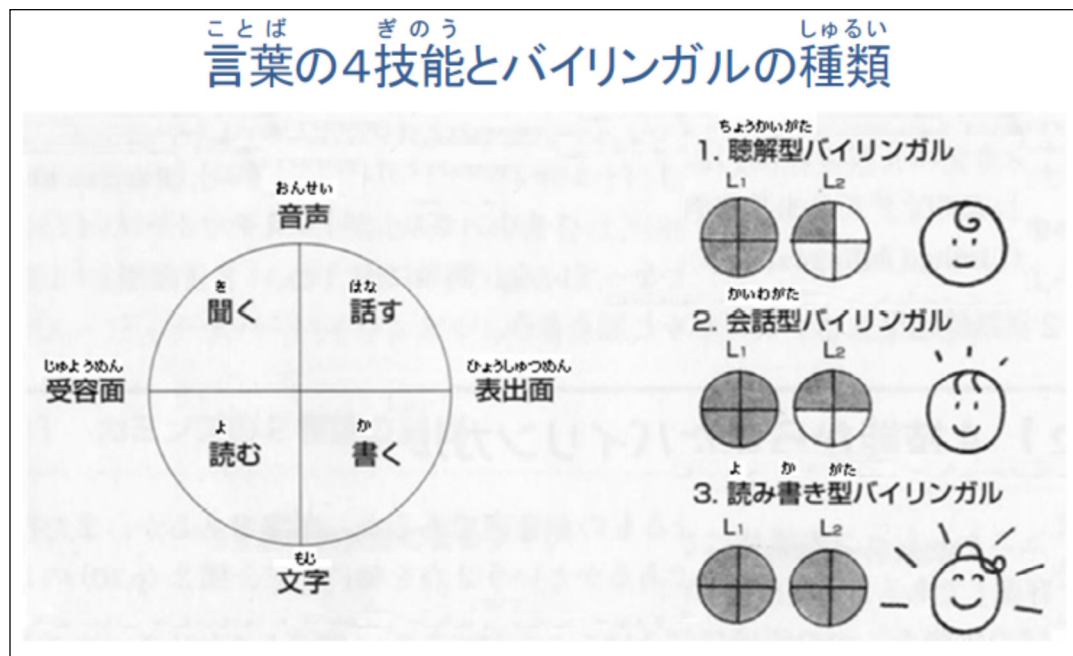
聞く・話す・読む・書く、この4つをことばの4技能といいます。母語と第二言語の両方について、聞く・話す・読む・書くができる人を「読み書き型バイリンガル（バイリテラル）」と呼んでいます。

日本語は学校で習うので、聞く・話す・読む・書くができるけれど、母語については、聞く・話すはできても、読む・書くができないときは、「会話型バイリンガル」と言います。読むことができないので、文字から情報を得ることができません。でも、この人は会話はできます。

日本語については話す・聞く・読む・書くができるけれど、母語については話すことができなくて、聞いてわかるだけのとき、これを「聴解型バイリンガル」と言います。

聴解型バイリンガルの子どもの場合、お母さんが母語で子どもに話しかけても、子どもは日本語で返事します。お母さんが日本語がわかるときは、子どもは母語で話す必要がありませんから、母語が話せなくなります。子どもの母語の力はどんどん弱くなって、大きくなったら母語を忘れてしまいます。それはとても悲しいことです。

このように、バイリンガルには3つの種類があります。



三 バイリンガルに関係する要素

それでは、そのようなバイリンガルをつくる要素は何でしょうか？ 大きく分けて、子どもの状況、保護者の状況、周りの人々（環境）の状況、の3つがあります。

子どもの状況

あなたの子どもが日本に来たときの年齢は何歳でしたか？ よく言われることですが、子どもが9歳・10歳くらいで日本に来た場合、その子は早く日本語ができるようになります。自分の国で9歳・10歳まで勉強して日本に来た場合、母語については聞く・話す・読む・書くが全部できます。日本に来て日本語を勉強するときに、母語に訳して練習すれば、すぐ理解できます。すぐ覚えられて、すぐに日本語が上手になります。

でも、もし日本で生まれて、母語もゆっくり、日本語もゆっくりしか勉強できなければ、ダブル・リミテッド・バイリンガルになる可能性があります。9歳か10歳までにひとつの言語がしっかりとできるようになっていれば、考える力がつきます。しかし、9歳になる前に何度も引っ越しをして、母国と日本を行ったり来たりしていると、子どもは混乱して、ふたつのことばが両方とも育たなくなる可能性があります。皆ではありませんが、そういう可能性があります。このように、日本に来たときの年齢が要素になります。

それから、日本に来てから、あるいは日本に生まれてから、何年くらいたっているのか、という日本での滞在年数も問題です。

それから、母語力のレベル、母国や外国で学校に行った経験があるかということも関係します。

また、子どもの性格もあります。明るくて話すのが好きな性格かどうかということも関係します。おとなしくて引っ込み思案、知らない人と話すのが怖いという性格の子もいます。

それから、兄弟姉妹がたくさんいると、家で母語を話すチャンスが増えますから、ことばが伸びる可能性があります。特に、一人目の子どもよりも下の子どもの方が、お兄ちゃんお姉ちゃんをまねしてたくさん話せるようになることが多いです。このように、子どものいろいろな状況があります。

保護者の状況

次に、家族の社会的・経済的状況があります。毎日仕事で忙しい親と忙しくない親とでは、子どもに関わる時間が違います。毎日何時間でも子どもと話せる人もいれば、ほとんど話す時間がない人もいます。長い方がいいでしょうけれど、短くても質が高ければ大丈夫です。家で子どもと話すときに、どんな話をしているかが大切です。「早く起きなさい」「ご飯を食べなさい」「早く行きなさい」「忘れ物をしないようにチェックしなさい」「宿題した？」「お風呂入りなさい」「寝なさい」。それだけだったらあまり質の高い会話ではありません。子どものことばはあまり増えませんが、伸びません。いつも同じ会話だけですから。

本と一緒にたくさん読んだり本についてお話したりすると、会話の質が上がるので短い時間でもとてもいい効果があると思います。

それから、お父さんお母さんが、日本語がどれくらい上手かということも関係します。お父さんお母さんがとても日本語が上手で、母語と同じくらいできる人もいるでしょう。その場合はあまり問題がないかもしれません。

でも、お父さんお母さんが日本語が少ししかできない場合は、子どもを通訳として使ってしまったります。

例えば6歳の子どもの市役所に連れて行って通訳させると、子どもは学校生活の日本語の会話はできても、市役所で使われるような難しいことはわからないので、うまく通訳できません。すると、子どもはたいへん悲しい思いをします。お父さんお母さんを助けることができないし、自分も恥ずかしい思いをして、通訳が嫌な体験になります。それはよくないですね。お父さんお母さんが日本語ができないときには、子どもではなくて、大人の通訳を頼んだほうが良いと思います。

それから、お父さんお母さんの教育方針や将来計画も関係します。日本にいつ頃までいる予定ですか？子どもに、日本語と母語の両方を学んでほしいと思っていますか？ 思いませんか？ 親がそういう将来計画をはっきり持っていることが、子どもに影響を与えます。

周りの人々

教育環境のことですが、子どもの祖父母が母国にいる場合、子どもが母語でおじいちゃんおばあちゃんと話ができたらとてもいいと思います。

しかし、例えば国際結婚の場合、外国人の親と子どもが外国語で話すのを、日本のおじいちゃんおばあちゃんが、わからないから聞きたくないということがあるかもしれません。ある子どもの場合、日本人のお父さんとタイ人のお母さんです。日本人のおじいちゃんおばあちゃんが、「子どもとお母さんがタイ語で話すのはやめてください」と言ったそうです。そうすると、お母さんはあまり上手ではない日本語で話して、母語であるタイ語は使わなくなってしまいました。

同じことが保育園の保育士さん、学校の先生、周りの大人、みんなに言えます。バイリンガル教育について考えないで、「ここは日本だから日本語だけ話してください」と言うのは、よくありません。子どもがお母さんの母語と日本語の両方練習していることを、すばらしいことだと励ましてあげてもらいたいと思います。

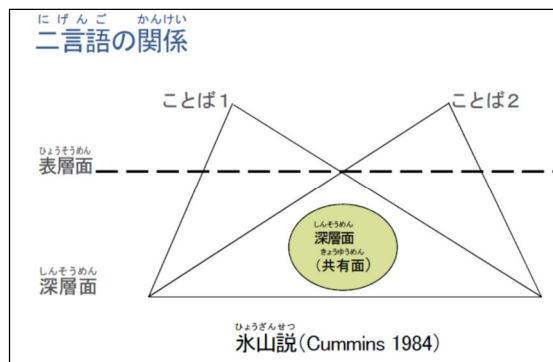
四 二言語の関係

これは、ジム・カミンズというカナダの先生が言った「冰山説」という仮説です。水に氷山が浮かんでいるイメージです。水の上を見ると、ふたつの氷山は別々のように見えます。でも、水の中ではつながっています。

例えば、子どもが中国語（ことば1）と日本語（ことば2）を話しているとき、頭の中は別々で、日本語と中国語は全然関係がないように見えるかもしれませんが。でも実際頭の中では、両方のことばに共有している面があります。

特に、母語で習ったことや考えたことは、第二言語に転移（transfer）しやすいです。つまり、母語で習ったことは、日本に来てから日本語で使えるということです。

例えば、算数の計算を母語で習ったら、ことばを日本語に変えるだけで考え方は同じです。考え方は全く同じなので、2回新しいことを勉強するのではありません。ことばを変えるだけです。しかし、逆に、日本語で習ったことを母語で言えるようにするのは、日本では機会が少なく、子どもの学習動機が低いことが多いので難しいです。



五 バイリンガル教育の成功事例

国際結婚の家庭の例

お父さんが日本人でお母さんが台湾人、今4歳の女の子の場合です。お父さんとは日本語、お母さんとは中国語で話します。それからお父さんと日本語の本、お母さんと中国語の本を読みます。どちらもすごく上手です。日本語も日本人の子どもと同じようにできます。中国語も中国人の子どもと同じようにできますから、現時点では、完全にバランス・バイリンガルで読み書き型バイリンガルです。

実はこのお父さんは、昔私の学生でした。国際結婚をしたときに、私の教えたルールを守ったと言っています。このルールは「一人一言語」ということです。お父さんは日本語だけ、お母さんは中国語だけ話します。お父さんとお母さんは英語で話すようですが、子どもとは、お父さんは日本語、お母さんは中国語でだけ話します。ですから、家庭内言語は中国語と日本語が半分半分です。

さらに、お父さんの方もお母さんの方も祖父母と親戚がたくさんいるそうです。普段日本にいるときは日本の親戚と日本語で話し、年に2回くらい休みのときに台湾に行って、台湾の親戚と中国語で話します。

家でその子とお母さんが中国語で話しているとき、日本人のおじいちゃんおばあちゃんは、その

内容は全然わからないけれど、「大丈夫。中国語で話してあげてください」と言ってくれているそうです。

その子は二言語で毎日会話をし、両親はそれぞれの言語で毎日読み聞かせをしています。日本語と中国語を混ぜることは絶対にしません。日本語で読むときは最初から最後まで日本語で読みます。中国語も同じです。途中で混ぜると子どもの頭は混乱するので混ぜません。お父さんとは日本語だけ、お母さんとは中国語だけ—この方法で4年間やっていて、子どもは全然混乱していないと言っています。

中国人の家庭の例

中国人のお父さんお母さんは日本語があまり上手ではないそうで、家の中では全部中国語です。

この子どもは日本で生まれました。小学校1年生のときに、日本語と中国語のどちらも問題があるといってみんなが心配していました。大阪のある小学校の子どもですが、私たちはご縁があつて調査に行つて、その子どもの日本語と中国語の調査（アセスメント）をしました。1年生・3年生・5年生のときにしました。

1年生のときはどちらもあまり上手ではありませんでした。3年生のとき、日本語は少し上手になり、中国語の方が上手でした。そして5年生のとき、中国語はすごく上手になっていました。

これから聞いてもらいます。（録音を聞く。K：K児 T：教師）

1年生時の中国語 中国の国語の教科書より雪だるまとうさぎのお話を読んだあとの会話

K「（中国語）私がわかっているようなのは、雪だるま、うさぎを雪の中に入れた。ここまでしかわからない」

T「（中国語）雪だるまは誰が作ったの？」

K「（中国語）うさぎ」

T「（中国語）うさぎのお母さんはなぜ雪だるまを作ったの？」

K「（日本語）わからん」

雪だるまとうさぎは仲よしでした。うさぎの家が火事で焼けそうになったので、雪だるまが自分の体を投げ出して火を消しました。それで、家は焼けなくて助かったというお話です。お話を讀んだあとに「どんなお話でしたか」と聞いたところ、説明してくれたのですがあまりよくわかっていないし、途中で中国語で答えられなくて「わからん」と日本語で言っていました。

1年生時の日本語……絵本『きんぎょのとととそらのくも』（西巻茅子・こぐま社）を讀んだあとの会話

T「どんなお話でしたか。初めて聞いた人にわかるように説明してください。終わったら終わりですと言ってください。はい、どうぞ、Kちゃん」

K「えっ」

T「『きんぎょのとととそらのくも』ってどんなお話やった？」

K「もう、そんなん、もう忘れすぎる」

T「ほんま？」

K「うん、初めて見た本はすぐに忘れる。」

T「すぐに忘れちゃうの？ ほんならちょっと思い出してみようか」

こういう様子で、読んだ本は全然覚えられないと言っていました。日本語も弱いんですね。担任の先生はたいへん心配していました。

3年生時の日本語……『うみがめの赤ちゃん』（なかむらつねお てのひら文庫）を読んだあとの会話

T「最初に出て来たのどれ？」

K「親うみがめ」

T「うん、親うみがめ、出て来たよね。親うみがめは最初にどこに行きましたか？」

K「えー？ 土のところ？」

T「うんうん」

K「あ、ちがう。あんじょうに行つて、地上に行つて、ほんで、そこに、たまごを生み生んで、で、次は最初のあれ。ほんで、土を、ほいて、ほんで、さっきの何センチのところ」

T「うんうんうん」

このように、いちおうはおぼえていますが、あまりうまく説明ができなかったんです。「土をほいて」「ほんで」と言ったのは「掘つて」という意味です。

5年生時の日本語……『きまぐれロボット』（星新一 あおぞら文庫）を読んだあとの会話

K「ある博士は私の作ったロボットは優秀だと言って、エヌ氏というお金持ちがそのロボットを買いたいと思って代金を、あの、払つてロボットを買つて、あの、別荘に帰つて、一緒に暮らして…」

このように、ずっと続けてかなり流暢に話しました。それから、この本に書いていないことまで話しました。自分で行間をよく読んでいる例があります。

T「そしたらね、このロボット、優秀だって最初博士が言ってたよねえ？ 優秀だと思ふ？ 優秀じゃないと思ふ？」

K「うん、自分で考えてるから優秀かなあ」

T「すごいいいこと言ってくれてると思つたけど、もう一度説明してくれる？ 自分で考えてるって？」

K「あの一、このロボットは知能の、持った、えとロボットで、何を言ってもやってくるけど、あの、あの、買ってくれた人に運動不足になるかもしれんから、ロボットは自分で、何もせずに、あそこで故障した」

ただことばを読むだけでなく自分の解釈を自分で考えることができます。

5年生時の中国語……『ピノキオ』を読んだあとの会話

K「（中国語で）職人さんはピノキオを作った。ピノキオに何か足りないと思って、顔にはほほ笑みを彫ってあげた。それで、ピノキオは出かけた。そして、狐にあって（注：狐を言い間違えた）、『あなたのかばんを貸してもらえませんか、よく似合うようです』と言った。ピノキオはかばんを狐に渡した。狐は走って行った」

すごく上手にすらすらとお話しできていると思います。1年生、3年生、5年生とどんどん上手になっていった様子を、少しわかっていただけたでしょうか。

どうしてこの子はバイリンガルになれたのでしょうか。中国語の方がよくできます（優勢）が、学校では中国語は全然習っていませんし、家でも中国語を読むことは習っていません。

この子が言うには、中国語のビデオやテレビ番組を見て、字が読めるようになったそうで、映像と音声で、話の内容を理解しながら、画面下の字幕を読んでいたそうです。それを小学校1年生から毎日毎日ずっと続けているので、ことばの使い方もわかるし、読めるようになったということです。中国語が優勢で、それに伴って日本語力も伸びているので、クラスのトップではないですが、真ん中より上で優秀な子どもになっています。

六 保護者にできること

保護者に心がけてほしいこと

次に、外国にルーツを持つ子どもたちに、お父さんお母さんがどんなことができるか、ということをもとめてみたいと思います。ここに書いたのは、絶対的なものではありません。ひとつのアイデアなので、自分で考えて、できることは試みてみられたらいいと思います。

ひとつ目は「一人一言語」。先ほどの国際結婚の家族の例のように、お父さんは日本語の担当、お母さんは中国語の担当ということを決めて、ずっと守るというやり方です。

次に、会話だけではなくて読み書きもできるようになると、たいへん有利です。「バイリテラル（二言語で聞く・話す・読む・書くがすべてできること）」を目指すよといと思います。母語が読み書きできるかできないかは、たいへん大きな差です。つまり、母語の文字から情報が得られる、インターネットから、本から、新聞から得られるということになりますから。

でも、子どもに「バイリテラルになりなさい」と言っても、独りではなれません。母語の本に接する環境を、保護者が用意する必要があります。本でもいいし、ビデオでも、映画や漫画などでもいいです。書いたもの、文字情報に子どもが簡単にアクセスできるようにしてあげる必要があります。

それから、親は、自分の得意な言語で自信を持って子どもに話すといいと思います。子どもはお母さんが自信があるかどうかということがすぐにわかります。日本語があまり得意ではないのに、無理して自信のない日本語で子どもに話していると、子どもがお母さんをバカにするようになるかもしれません。

日本の先生や保育士さんたちの多くは、バイリンガルのことをあまり知りません。母語が大切だということを、周りの人たち、学校や保育園の先生たちに話して、子どもが母語を大切にしよう励ましてもらいたいと思います。

いろいろ挙げましたが、完璧でなくてもいいのです。少しずつでも、ずっと長く続けていくことが大事なことです。小さいときに子どもがうまくできなくても、叱ったり、ダメと言ったりしないでください。少しでもできたら褒めてあげて、長く続けて5年後、10年後にバランス・バイリンガルになったらいいと思います。

保護者にできること

- ・国際結婚の場合、「一人一言語」
- ・「読み書き型バイリンガル（バイリテラル）」を目指す（読み書きできると強い）
- ・子どもが母語の本（文字情報）にアクセスできるようにする
- ・親は自分の得意な言語を（得意な言語で）自信を持って子どもに伝える
- ・母語の大切さについて、家族・親族、周りの人々（学校関係者等）の理解を得る
- ・完璧でなくても「継続」することが大切

やってみてください

- ・親の自信のあることば(母語)で、子どもと会話をするのを楽しんでください。
- ・母語で、絵本や本の読み聞かせをしてください。本を見せて読んであげてください。読んで終わりではなくて、読んだあとでその本について話し合ってください。それは、質の高い会話になります。そうすれば、本が好きな子どもになります。これは大事なことです。本が好きな子どもと本が好きではない子どもは大きく差ができてきます。子どもは最初はみんな本が大好きです。ですから、本を読むのが楽しい経験になるように続けてください。本と言いましたが、本ではなくても、テレビ・ビデオ・アニメ・マンガ、何でもいいです。字が書いてあったらいいです。ことばを増やすことができますから。そして、見終わったあとで、それについて話すことが大事です。
- ・子どもの母語があまり上手ではなくても、悪いところを叱るのではなく、できるようになったところを見つけて褒めてください。「上手にできた、前よりできるようになった」と褒めて励ましてあげてください。母語を使う経験がいつも叱られる経験になったら、子どもは「もうやりたくない」と思います。ですから、ちょっとでも上手になったら「あなたは天才だ」とたくさん褒めて、もっとやりたい、もっと読みたいと子どもが思えるように上手に褒めてください。子どもは、口先だけで褒められているのか、心から褒められているのかすぐにわかりますから、口先だけで「上手、上手」と言うのは絶対だめです。心の底から、本当に上手だと思って本気で褒めてあげてください。
- ・最後に、お父さんお母さんが日本語が下手なままで、子どもにだけ頑張れ頑張れと言うのは、子どもにずるいと思われれます。お父さんお母さんも日本語を頑張っている姿を見せて、家族みんな頑張るといふ雰囲気であげるといいなと思います。

私の話は、これでいったん終わります。

参考文献をご紹介します。日本語の本ばかりですが、興味のある方は、読んでみてください。

参考文献

遠藤ひろみ編著『外国人児童生徒のための支援ガイドブック

—子どもたちのライフコースによりそって—』凡人社 2011年

ジム・カミンズ、中島和子訳著『言語マイノリティを支える教育』慶応義塾大学出版会 2011年

川上郁雄『「移動する子どもたち」のことばの教育学』くろしお出版 2011年

志水宏吉『高校を生きるニューカマー —大阪府立高校にみる教育支援—』明石書店 2008年

中島和子『言語と教育』財団法人海外子女教育振興財団 1999年

中島和子『バイリンガル教育の方法 —増補改訂版—』アルク 2001年

中島和子『マルチリンガル教育への招待 —言語資源としての外国人・日本人年少者—』

ひつじ書房 2010年

早津邑子『異文化に暮らす子どもたち ことばと心をはぐくむ』金子書房 2004年

みなみななみ『まんが クラスメイトは外国人』明石書店 2009年

質疑応答

バイリンガルに育てたい

質問者A: 貴重なお話ありがとうございました。私は日本人で母語は日本語です。妻は中国人で母語は中国語です。子どもは今6か月ですが、この子をバイリンガルに育てたいです。

先ほどのバイリンガルの例では、夫婦間の言語が英語だとおっしゃっていました。私たち夫婦間の会話は、私はある程度中国語ができて、妻はある程度日本語ができて、ミックスの状態です。子どもがそれを聞くと、混乱してしまうでしょうか。

真 嶋: どのくらいミックスされていますか。それと、日本語で話していて途中で中国語の単語が混じるようなミックスですか？

質問者A: ミックスの割合は半分半分です。話の途中で別の言語の単語が混じることもありますし、私が日本語、妻が中国語で答えることもあります。これなら、「一人一言語」のルールには合っているんですね。

真 嶋: 話の途中で、別の言語の単語が混じるのは避けてください。子どもが混乱します。

お子さんとお父さんだったら日本語、お子さんとお母さんだったら中国語、夫婦間ではそれぞれの母語でというのは、一人一言語のルールに合っています。でも、子どもさんが大きくなって、家族3人で話すときはどうするかという問題ですね。

「一人一言語」が大原則ですが、他に時間を限定する、場所を特定する方法もあります。この時間は中国語だけで話そうとか、この部屋に入ったときには日本語だけを使うとか、何かルールがあるといいみたいです。

子どもさんが3年後、5年後、10年後にどうなったか教えていただきたいです。お父さんお母さんの第二言語の能力も、もっと伸びているかもしれませんよ。

今日やったから明日バイリンガルになるというものではありません。長い目で見てください。今はまだ話さなくても、頭の中で何もしていないわけではないのです。子どもは、聞くことをたくさん積み重ねていって、初めて話せるようになります。時間が必要なのです。あきらめしないで、長い目で見てあげてください。

それと、まわりの人たちに、バイリンガルは時間がかかることを十分理解してもらう必要があります。モノリンガルの日本人と比較して、「ことばが遅いんじゃない？ だめなんじゃない？」と言われて、潰されてはいけません。10年後にはモノリンガルとは全然違う、もっと柔軟性を持った人になっているはずですよ。

質問者A: ありがとうございました。

子どもが母語に関心を持たない

質問者B: 私は中国人、主人は日本人で、子どもは上が5歳、下が1歳です。夫婦の会話は全部日本

語です。上の子に中国語を教えたくても、なかなかチャンスがないんです。子どもは、お母さんは日本語をしゃべれるからと思って、中国語を使おうとしません。私が中国語を話すと嫌がります。受け入れようとしません。「面倒くさいから、日本語にして。みんな日本語がわかるんだから、日本語でいいじゃないの」と言います。

真 嶋：子どもさんは日本語の方が楽なんですね。日本語が上手になったので、中国語が面倒くさくなっているのだと思います。お母さんが日本語が上手なので、子どもが安心していう面もあります。

それでも、あなたにとって中国語も大事だ、ということ折りにふれてお話されるといいです。そして、中国語が話せたり、聞けたり読めたりすることが楽しい思い出につながる、という経験がたくさんできたらいいと思います。今まで、中国語の読み聞かせなどをされたことがありますか？

質問者B:小さい頃はしましたが、最近子どもが嫌がるんです。

真 嶋：そうですね。難しいですよ。当たり前のことですけれども、日本社会では日本語が優勢で、中国語は別にできなくても困りません。だから、その中国語を身につけさせたいと思ったら、親の努力と周りの理解が必要です。自然にはバイリンガルになりません。

例えば、5歳の子どもさんだったら、毎日30分だけ寝室でお父さんも小さい子も交えずに、ママと二人だけで中国語で絵本を読んだりお話ししたりする特別な時間を持つのはどうでしょうか。その子にとってママを独り占めにできる楽しい時間に中国語を話すのです。中国語を聞いたり話したりすることが自分の特権であり、すばらしいこと、楽しい経験であると認識するように工夫してみてください。

質問者B:ありがとうございます。早速してみます。

真 嶋：それではいったん休憩をして、次は言語ごとのグループに分かれて皆さんの経験をシェアしてもらって、最後に全体で共有したいと思います。

【グループで質問および意見交換】



真 嶋：では各テーブルでどのような話が出たか、通訳の人からまとめをお願いします。

【タイ】参加者1人（詳細はp17）

佐 藤：娘さんはタイ語でお母さんと会話していたのですが、最近それを拒否するようになって、お母さんがタイ語で話したら、内容は理解しているのですが、「日本語にして」と言います。それで、お母さんが頑張って日本語で答えると、子どもは日本語の間違いを指摘してお母さんをバカにするので、お母さんがしんどいという状況です。これからどうやって楽しくタイ語で話をしたらいいのか、という環境づくりのことなどを話し合いました。

【ベトナム】参加者3人（詳細はp18）

近 藤：2家庭ともお子さんが2歳以下と小さいので、まだ大きなことばの問題はありませんが、今日のお話を聞いて、これからもっとベトナム語を話して聞かせ、ベトナム語の本の読み聞かせを進めていきたいということです。ベトナム語の本はたくさん持っているそうです。それと、10歳までが母語を覚えるのに大切な時期だとわかったので、それを頭に置いて頑張っていきたいとのことです。

【ペルー】参加者2人（詳細はp21）

櫻 井：3人とも日本で生まれたお子さんです。2歳から小学生まで、それぞれ問題が違いますが、3人とも共通して母語を大事にしたいと思っています。特に母語を話すだけで読むことをしないと、母語を維持することが難しいので何とかして読めるようにしたいとのことです。

【中国】参加者20人（詳細はp24）

孫成志：子どもの中国語の発音やことばの間違いを指摘するのはいいのか、という質問が出ました。また、文字に触れさせることの大切さ、「一人一言語」でことばをミックスしないことの大切さについて話し合いました。

それと、幼い子どもは中国語の勉強の必要性がわからないので「嫌だ」と言うことがよくあります。それをどうやって興味を持たせるかについて皆で経験を話し合いました。例えば、土曜日の夜7時から1時間、家で中国語の勉強をしている、あるいは寝る前に中国語で絵本を読み聞かせして、どこが面白いのか話し合っているなどです。中国語を教えようとするのではなく、中国語を使って家族みんなが楽しむことが大事だという意見が出ました。

真 嶋：はい、ありがとうございます。どのお母さんもお父さんも母語で質問したり意見が言えて、よかったです。

今のグループの発表にもありましたが、「日本なのにどうして母語をやらなくちゃいけないの」と子どもが疑問を持つ時期があります。そういうとき、叱ったり、押さえつけて無理にやらせても、うまくいきません。母語を学ぶことがよい経験につながるように、動機付け

をすることが必要です。母語を一生懸命暗記して勉強させるのではなく、母語を使って楽しいことをするのが大切です。

言語の形成期は、9～10年くらいです。10年間努力すると言語の基礎ができます。バランス・バイリンガルになるように、基礎ができるまでぜひ頑張ってください。でも、力こぶを入れて頑張るのではありません。楽しい経験を積んでいただけたら、子どもにとってかけがえのない財産になると思います。

言語別グループでの質問および意見交換の詳細

*話題ごとに編集したので、実際の話し合いと若干順序が変わっているところがあります。

◆タイ語のグループ

参加者A：タイ人女性。夫は日本人。子どもは日本生まれで小学生。

アドバイザー：真嶋潤子 通訳：佐藤恵美（タイ語通訳）

参加者A：私はタイ人、夫は日本人です。小学生の娘は日本生まれで、日本語が上手です。幼いころはタイ語で私と話していたのですが、最近になってタイ語を拒否し始めました。私がタイ語で話す内容は理解しているけど、タイ語では答えなくて、日本語で答えます。

子どもが「お母さん、日本語で話してよ」と言うので、仕方なく私が頑張って日本語で話すと、娘は「お母さんの日本語は間違っている。アホや」などと、間違いを指摘してばかりします。

真嶋：お母さんが自信のあるタイ語で話す方がいいですよ。自信を持って話すと、子どもはお母さんを尊敬します。

参加者A：子どもは「お母さんは日本語で話す方がいい」と言います。やはり、子どもはタイ語に自信がないのでは？

真嶋：言語形成期はほぼ10年です。身近に目標とする人を見つけるとか、目標とする職業を考えさせるのはどうですか。

参加者A：子どもの今なりたい職業はお菓子屋さんです。

真嶋：タイ語もしゃべれるお菓子屋さんってステキじゃないですか？ 将来の仕事など、タイ語ができたらこんなことができるよ！と期待を持たせてみたり、タイ語も日本語もできる知り合いなどをモデルにしてみることはできませんか？

お父さんにも協力してもらおうのはどうですか？

参加者A:お父さんは日本語だけです。私は来日10年。日本語は3年間習ったけど、日常会話だけ。将来、複雑なことなどを話すときにタイ語を使いたいので、子どもにタイ語を勉強してほしいです。

真 嶋：子どもさんは、学校などで言われたことば、自分が傷ついたことばをお母さんにぶつけているのでは？

参加者A:わかりません。タイ語に対する拒絶が激しいです。テレビも日本のものばかり見ます。親戚とスカイプするときも、簡単なやり取りだけです。難しい内容をタイ語で言おうとすると、「もう話したくない」と言います。最近、英語を習いたいと言っています。

真 嶋：お子さんがやりたいと言っているのはいいですね。いくつの言語までしかやっちはいけないなどという制限はないですから、大丈夫ですよ。母語の勉強さえ続けていけば、3つでも4つでもできますよ。子どもは許容量がたくさんあるので、文化的な要素を取り入れて興味を引くものを探すことが大切です。

◆ベトナム語のグループ

参加者B：国際結婚、ベトナム人女性、夫は日本人、子どもは2歳3か月と1歳数か月の2人

参加者C：ベトナム人女性、夫もベトナム人、子どもは2歳2か月。

アドバイザー・通訳・記録：近藤美佳(ベトナム人の子どもの母語学習支援サポーター)

子どもの現状について

参加者B:正直まだ子どもが小さいので、具体的にこういう問題で困っているということはないんです。子どもはベトナム語で話しかけても理解はしているようですし、“Đạ, vâng (はい)”などと答えてくれるようになりました。上の子は、下の子の出産のとき、一時期ベトナムの親戚の家に預けていたので、よりベトナム語を理解しているように思います。

参加者C:私の子どもも、ベトナム語で話しかけると理解はしているようです。うちは男の子ということもあってあまりしゃべらないんですが、どうですか？

参加者B:私の子も男の子ですが、お話をするのは大好きですよ。歌を歌ったりすることも好きで、ベトナムの童謡も一部ですが歌えるようになりました。

参加者C:それはすごいですね。

近 藤：私も歌をよく授業で使います。最近はユーチューブなどですぐ音が入るので便利ですよね。

家族の将来、子どもの将来

参加者C:夫の仕事の都合もあり、いつベトナムへ帰るかがわからないことが大きな不安要素です。日本で学校へ行かせてしまって、途中でベトナムへ帰ることになったとき、ベトナムで学校についていけるかどうか……。

参加者B:私は国際結婚なので、これからずっと日本で暮らすことが確実ですが、両親がどちらもベトナム人だとその問題は大きいですね。ベトナムの学校は学ぶことが本当に多いですから。

参加者C:そうなんです。だから、それで子どもに大変な思いをさせるなら、正直早く帰国してしまった方がいいのかなとも思います。せっかく今、日本に住んでいるのだから日本語も残せたら、とは思うけど……。

近 藤:そうですね。せっかく今、お父さんお母さんが日本にいてくださるのだから、お子さんに日本語も勉強してもらえとうれしいです。とりあえず、おうちでベトナム語を、特にベトナム語の文字、正書法だけでもしっかり教えておいていただければ、子どもはきっと適応してくれますよ。

参加者C:せっかくだから日本語も少しは残せるといいのですが。親がそうしてやって、それを受けて子どもが将来日本に戻りたいと思えば、自分でそういう道を選べばいいと思っています。

家庭での語りや本読みについて

近 藤:おうちにベトナム語の本はありますか？

参加者C:あります。ベトナムで買ってきました。

参加者B:あります。もちろんまだ読むことはできませんけど、子どもは絵を見て楽しんでます。

近 藤:ぜひ、文字と絵を見せながら読み聞かせしてあげてくださいね。

参加者B:はい。あとは、本を使わずにお話を聞かせることもよくしています。ベトナムの昔話を話して聞かせます。子どもはとても喜んで聞きます。

近 藤:すごいですね。ぜひそのあと、そのお話について話し合ったり、感想を聞いたりしてみてください。

母語の確立、母語学習への励まし

真 嶋:母語はだいたい10歳までに確立するといわれていますから、それまでお母さんしっかり頑張ってくださいね。10歳を過ぎてからやり直すことはかなり難しいですから。

参加者C:10歳までが重要なんですね。しっかり覚えておきます。

真 嶋:母語も日本語もできる人をモデル(お手本)にできたらいいですね。

参加者C:日本語もベトナム語もできる知り合いがいるので、モデルにしてみます。

参加者B:両方の言語ができれば、いろんなすごい仕事ができますね。社会に貢献できますね。

参加者C:私は英語も学ばせたいです。ベトナムでも英語の需要は高いですから、ぜひ、と思っています。

周囲の理解

参加者B:夫婦間では、やはり子どもには父親のことば(日本語)と母親のことば(ベトナム語)の両方を残した方がいいのかな、という話をするのですが、父方の祖父母がそうは思っ

いないみたいで……。

例えば、食事の際に私がベトナム語で子どもたちに話しかけていると、おじいちゃんおばあちゃんに「お母さん、ベトナム語を話しすぎだよ、それでは子どもが学校に入ったとき日本語がわからなくて困ったり、友達が遊んでくれなくなるよ」などと言われるので、どうしていいかわからなくて。

近 藤：そんなことないですよ、大丈夫。私は、ベトナムの子どもたちにベトナム語を教える以外に、小学校で国際理解教育の一環で日本人の子どもたちにベトナムのことばや文化を教えることもあるんです。そのときに、日本の子どもたちの前で、あえてベトナムの子どもにベトナム語を話させるんですが、みんなの反応がとてもいいんですよ。「すごい！ ベトナム語しゃべれるんだー！」って褒めてくれます。

日本ではやはりまだ母語とかバイリンガルへの理解があまりないですよ。保育士さんに家で日本語を使うように言われた、などという話もよく聞きます。

サポート体制の周知

近 藤：大阪は他の地域に比べると、外国人教育が進んでいる地域だと思います。ぜひ、お子さんが小学校に入ったら、日本語と母語の支援が必要だということを、まず学校に相談してみてください。通訳や教育サポーターを用意してもらえるはずですよ。

参加者B:そういう制度があるんですか。

近 藤：残念ながらどの地域でも、どの学校でも、というわけではないようですが……。正直、学校や担当の先生の熱意次第というか……。でも保護者の方からの強い要求があつて学校が動く、という形になると思うので、まずは相談してみてください。

参加者B夫妻:ぜひ、そうします。

まとめ

今回参加して下さった2家庭のお子さんはまだ小さいこともあり、他のお母さんの「子どもが母語を拒否する」「学校で学習に困っている」などという話に対しては、覚悟はしているが現時点では正直ピンとこないといった様子でした。しかし、どちらのお母さんも非常にお子さんのことばの教育に関して真剣に向き合っていて下さっており、実践に向けて本をそろえるなどの準備がすでに整っているなど、教育熱心なベトナムの女性の姿に感動しました。さらに今日の講演を聞き、何度も資料を見直しながら、これから子どもともっとベトナム語で話すようにします、と熱い思いを話してくださいました。

お母さん方のこの頑張りに応え、また少しでも安心して日本で子育てをしていただけるようにするためにも、例えば教育サポーターの派遣や高校入試の優遇制度などといった情報や、母語学習のための教材を、外国人のご家庭にきちんと届けられるような方法があれば……と強く感じました。(近藤美佳)



◆スペイン語のグループ

参加者D：ペルー人女性。夫もペルー人。子どもRくんは8歳男子。日本生まれ。

ペルーには、子どもが3歳のとき一度だけ連れて行ったことがある。

参加者E：ペルー人女性で、夫もペルー人。子どもはCちゃん12歳女子、Mちゃん10歳女子、Iくん5歳男子。3人とも日本生まれ。家庭内では、きょうだいの間では日本語で会話しているが、両親と話すときはスペイン語を使う（外でも）。

アドバイザー・通訳：櫻井千穂

記録：梨木亜紀（スペイン語 学校支援通訳）

母語での会話

参加者D：毎年、新年を迎える際にペルーの親戚等とネット電話で話します。そのとき、R（8歳）にもスペイン語であいさつをさせようとするのですが、子どもはあまりしゃべることができません。また、しゃべりたがりません。スペイン語を話すことが恥ずかしいとか、プレッシャーに感じているようです。

年の少し離れたたいとこが近くに住んでいます、彼女は中学生のときに日本に来たので、スペイン語も完璧に話すことができます。そのいとおしゃべりをするとき、子どもは日本語でだと問題ありませんが、スペイン語でいろいろと話しかけられると、ぷつぷり押し黙ってしまいます。やはり、日本生まれか、ペルーで教育を受けてきたかの違いは大きいと感じてしまいます。

櫻井：8歳ぐらいの年齢の子どもだと、自己主張・反抗・照れなどで、そういう態度になることはよくあります。母語で絵本を読み聞かせるなど、楽しい雰囲気、忍耐強く続けてあげることが大事だと思います。

参加者D：Rより、弟で2歳のD（日本生まれ）の方が、今のところスペイン語には抵抗がないかもしれません。ネットで取ったアニメ映画の主題歌のスペイン語版を楽しんだりしています。

櫻井：楽しみながら母語に親しむきっかけとして、とてもよいことですね。同様のツールをもっと利用することも方法のひとつだと思います。

参加者E: 知人のペルー人家族のケースで、両親ともにペルー人ですが、家庭内では日本語を使っています。子どもは3歳から「くもん」に通わせ、日本語を習わせました。おかげでその子は、小さいうちからとてもきれいな日本語（文字）を書けるようになりましたが、今ではスペイン語は「わからん」と言うそうです。それはすごく残念なことだと思います。

母語の読み書き

参加者D: 家庭内でのスペイン語の日常会話は理解していますが、読み書きはできません。

参加者E: C（12歳）には、6歳から読むことを、10歳からは書くことを教えています。最近では、スペイン語で書かれた簡単な雑誌の記事などを読ませて、わざと「何書いてあった？ お母さんは読んでないから教えて」と、内容を口頭で説明させたりしています。スペイン語の学習に関しては、親から見ても本人はかなり頑張っていると思います。

妹のM（10歳）には、昨年あたりから読み書きを教え始めたところですが。しかし本人は、あまり興味を持ってくれず、それよりも「英語をやりたい」と言っています。

今は、Mよりも、弟（5歳）の方が興味を持ったようで、「ママ大好き」とスペイン語で書くのをおぼえて、あらゆるところに書いたりしています。

参加者E: ネットの語学学習サイトなどで、スペイン語の読み書きが勉強できるものがあれば、楽しみながらおぼえることができるかもしれないと思います。

櫻井: タブレット教材で、ひらがなを正しくかけたら「ピンポン！」と鳴るようなものがあります。スペイン語でも同様に、楽しく「書き」の練習ができるようなものがあれば興味を持つかもしれませんね。

参加者E: 日本のテレビでは、子ども向けに限らず、ニュースなどさまざまな番組で字幕スーパーがついているものが多いです。私も、それを見ながら音声を聞くと、このことばがこの文字かなというのが頭の中でつながってきたりして興味深いです。同じように、子どもも楽しめるスペイン語の字幕付きの番組などがあればいいのですけど……。

櫻井: マルチメディアDAISYでは、おはなしを多言語の音声&字幕付きで楽しめたり、ものの名前をスペイン語の単語のつづりとともに音声で聞けたりするソフトがあります。発音と画面の文章（読み上げている箇所）がリンクしているので、読み書きの学習に役に立つのではないのでしょうか。（いくつか実物を見せて紹介）他にもあるかもしれません。探してみても、何か見つければお互いに情報をシェアしましょう。

段階的に、聞いてわかる、文字に親しむ、そして最終的には書けるところまで到達することを目標にしたいですね。

母国の文化

参加者D:母語はもちろん、母国の踊りなど、伝えたいものや知ってほしいものはたくさんあります。けれども、子どもは現状では、ペルーの文化についてはほとんど知りません。とても残念です。

参加者E:子どもたちを、在阪ペルー人関係者が主宰するペルーの踊りが習えるグループに参加させています。そこで他のペルー人の子どもと交流できることが、子どもたちにより刺激になっているようです。

その子の家では、両親がいつもペルーのよいところとか、ペルーの家族・料理について、子どもにスペイン語で話しています。だからその子どもとてもペルーが好きで、興味・関心を持ち、ペルーのテレビ番組やビデオをよく見えています。

櫻 井:そんな友だちと交流することによって、Cちゃんは楽しみながらスペイン語を習得しているのでしょうね。

参加者E:Cは学校の友だちにもスペイン語を教えたりしています。

櫻 井:それは、すばらしいです。

子どもの学習や進路などについて

参加者E:日本の学校の勉強はもちろんですが、ペルーの学校教育の内容も昔とは変わってきているので、自分(母)では教えてあげることができないのが悩みです。

また、Cは将来、保育士になりたいと言っていますが、どのような高校を選択すればいいかや、大学進学の手続き等についてわからないことが多いので、情報が欲しいです。また、塾代を補助してくれるクーポンのことを知人から聞きましたが、手続きなどがわかりません…。

梨 木:懇談の場を利用して、中学の先生に確認してみましょう。また、塾クーポンの利用に関する資料の多言語翻訳版があるので、お渡します。

◆中国語のグループ

参加者：20人（配偶者の日本人、ドイツ人を含む）

アドバイザー・通訳：孫成志 記録：須磨みのり（中国語通訳）

孫成志：こんにちは。私は大阪大学の孫成志です。何かご質問はありますか？真嶋先生のお話の内容についても結構ですし、皆さんのお子さんの家庭内でのことについてもいいので、皆で話し合しましょう。

中国語の言語環境

参加者F：日本でどのように子どもの中国語の言語環境をつくったらいいのでしょうか？

孫成志：方法はふたつあります。

まずひとつ目は、家庭内での言語環境です。これについては先ほど真嶋先生が何度も言われたように、「一人一言語」の原則を守ってほしいのです。例えば、母親が中国語を話す、そして父親が日本語を話す、あるいは両親とも中国語を話すにしてもそうです。

しかし、子どもがある程度大きくなったら、両親となかなか中国語を話そうとはしないでしょう。ずっと日本語で会話をするかもしれません。そういうときには時間を決めて行うとよいです。例えば、月曜日や土曜日の午前中は中国語で会話する時間で、例えば、その時間帯に母親と中国のドラマを一緒に見る、あるいは父親と日本語の映画や書籍を読むなど、そのような家庭内の規則を作るといいです。土曜日午前はこれをやる、日曜日の午前はあれをやるなど決めるのです。

あと重要なのが、例えば父親が仕事で帰りが遅く時間が限られているときなどは、帰ってから日本語を話すようにすれば、「ああお父さんが帰ってきた、お父さんは日本語で僕に話かけてくるのだな」と子どもは意識するのです。そうやってだんだんと習慣にしていけば、母親とは中国語で話し、父親とは日本語で話し、外では友達と日本語で会話するようになります。

ひとつ目は家庭内部での環境でしたが、ふたつ目は外での環境です。これについては若干方法が少ないです。日本語の団体を活用することも有効です。例えば箕面には、土曜日の午前子ども中国語クラスがあってそこで一緒に遊ぶことができます。あとは日本語を教えてくれる場所で学ぶなど、言語環境を作っていくことが大切です。

参加者F：どうやってそういう団体に参加したらいいのでしょうか？

孫成志：市役所などに問い合わせるといいですよ。例えば「私は中国から来ましたが、子どもに日本語を習わせたい」あるいは「中国語を習わせたい」と言えば紹介してくれます。例えば、平野区役所に問合わせても紹介してくれますし、日本語教室などでも紹介してくれます。あとは、日本に長く居住している方も情報を持っているので聞いてみるといいですね。行政や友人を通じて情報を集めるといいです。



動機付け

参加者G:例えば子どもから「ママ、どうして中国語を学んだの?」と聞かれたらどう答えたらいいいのでしょうか?

孫成志:これはたいへん重要な質問ですね。子どもからこう尋ねられたら喜ぶべきです、なぜなら子どもがことばについて興味を持ったということなのです。そこで、まずは「ママは中国人なの。ママは中国人で誇りを持っているの。そのことばであなたとお話しましょう」というのです。

参加者G:でも彼は理解できないと思います。

孫成志:そうです。1回の説明では理解できないでしょう。

参加者G:「ママは中国人なの、だからあなたは中国語を学習してね」と言ってあげるという理解でよいのですか?

孫成志:そうです。まずは子どもに意思を伝えないとはいけません。子どもが母語を学ぶのは両親にかかっています。例えば、子どもをずっと日本で育てるから中国語は必要ないという保護者の方もいらっしゃいます。それもいいでしょう。しかし二か国語を学んでほしいのであれば、その考えを子どもに伝えるべきです。すると意識が芽生えます。この点が重要です。ある子どもは「僕は中国人だから中国語を勉強するんだ。日本で生活しているから日本語を勉強するんだ」と言っていました、彼は5年生のときにその意識になりましたが、やはり時間がかかります。

参加者G:例えば、私は日本にいますので日本語を学びます、子どももそのことはわかっています。例えば私が英語を学ぶのはその文化に興味があるからです。でも子どもはどうすればいいですか? 中国人だから中国語を学ぶ、というだけでは子どもの刺激にならない、興味がなければなかなか上手になれません。

孫成志:そうです。5、6歳の子どものあなたにあなたは中国人だから中国語を学びなさいと言っても、理解できないでしょう。国籍という概念がないからです。でもこれが「ママのことばだ」と言

ってあげる、親しみを持って、ママとお話ができることばなのだとしたら子どもは喜ぶのではないのでしょうか。例えば、毎週土曜日1時間ほど中国語の本と一緒に読んであげる、そしてその内容を子どもからまとめて話してもらおう。最初はやりたがらないでしょう。「僕は理解できたから話すことなんて必要ないよ」と言うでしょう、でも頑張ってください、毎週土曜日にこれを毎回やるのです。最初は本当に嫌がるでしょう。

「教える」のではない

参加者G: そうなのです。毎日夜、子どもに100個漢字を教えて書かせているのですが、なかなか一緒にやろうとしません。

孫成志: そうです! ここでの問題は、あなたは「教える」と言いましたね。勉強させるということは大きな間違いです。「中国語と一緒に遊びましょうよ」と言ってあげるのです。中国語は、ママと子どもの交流の手段なのです。教えるものではないのです。例えば「今日は中国語の本があるよ。一緒に見ましょうか」でいいのです。

参加者G: でも漢字は勉強させないと。

孫成志: 必要ないです。ことばの習慣付けがなされていないのに、書かせたり教えたりするのは早すぎます。子どもが中国語に興味を持ったら、子どもの方から「ママ、これは中国語でどう書くの?」と聞きます。こういう質問や信号が送られてきたら、しっかり教えてあげればいいのです。

参加者G: でも中国の小学校では漢字を教えていますよ。

孫成志: 中国の学校では、当然中国語の学習をします。「国語」のカリキュラムとして「教える」必要があります。

しかし、日本で暮らしている中国人家庭の中ではそうではありません。ことばは子どもと親をつなぐ道具のひとつと捉えてください。現在、日本に暮らしている子どもは、おそらく中国語が必要だとは感じていないでしょう。学習したとしても使う場所がないのです。それなのに無理に教えたら、やる気がなくなるでしょう。

でも中国語を使ってお父さんお母さんとお話できて遊べるとしたら、違ってきますよね。本を読むのもいいです。読解の基礎力を上げることも重要です。

しかし、注意したいのは、例えば10冊の本を両親が購入して、無理やり全部片っ端からしっかり読ませようとしてははいけません。子どもの興味というのはそれぞれです。面白いものがあれば、そこから2~3冊選んでもいいでしょう。動物、歴史、女の子だったらお姫様シリーズなど。あとは本屋に連れて行って選ばせるものいいですね。

読み聞かせ

参加者H:本についてですが、どこで購入したらいいのでしょうか？

孫成志：中国書籍を扱っている店が日本橋にあります。取り寄せしてもいいです。あとは中国国内の親戚などに頼んで、買って送ってもらう方法があります。取り寄せは輸入本扱いになるので、中国国内で購入するより高いです。中国なら1冊400～500円です。そして読み終わったら他の方に差し上げたり、図書館※などに寄付するのもいいです。

(※編集部注：大阪市では地域図書館にも外国語の本が入っていて、無料で借りることができます。その図書館にない場合、他の図書館からの取り寄せもできます。あなたの地域でも同様の制度があるかどうか、一度図書館で尋ねてみてください)

孫成志：とにかく文字に触れる機会を増やすことが重要です。子どもは3歳になると文字に興味を持ちます。父親が新聞を読んでいたら見に来ます。たくさん触れさせてあげるといいですね。

参加者J:子どもは日本語の本には興味を持つのに、中国語の本には興味を持ちません。

孫成志：そうです。興味というのは養わないといけません。日本語の本に興味を持つのは、日本語に触れる機会が多いからです。中国語の本に興味を持ってもらうには、例えば毎日夜寝る前に中国語の本を読んであげるなど、興味を養わなくてははいけません。これには時間がかかります。

参加者H:読むときには、どうすればいいのでしょうか？

孫成志：最初は話しかけるように読んであげるといいですね。

真嶋先生がおっしゃったように9～10歳に母語が形成されます。バイリンガルにするには、そこまで私たちは頑張らないといけません。日本で育った子どもは中国で育った子よりも3～5年遅いです。進歩が遅く感じるかもしれない。でもこれは正常なことです。15歳ころになると、バイリンガルになって中国の子を超えます。

参加者H:読む本を変えて続けるのですね。学校の本を読ませたらいいのでしょうか？

孫成志：学校で扱う以外のものの方がいいです。大量に読む機会を与えたほうがいいです。教えてばかりではだめです。子どもに話してもらうようにしましょう。例えばある物語を読んで「この物語のどの辺が一番面白かった？ どうして？」。この「どうして？」がポイントです。おそらく子どもは「面白いから」と答えるでしょう。それでもいいです。そのあと「捕まったから」「崩されたから」と、語彙も多くなってきます。

「どうして？」と聞いてあげて話す機会を増やすのがよいのです。最初は、お母さんが中国語で尋ねても子どもは日本語で答えるでしょう。それでもいいのです。「中国語で言いなさい」と言う必要はありません。直さなくていいです。少しずつ導いていくのです。あなたは中国語で話しかけてください。するとだんだん中国語で答えるようになってくるでしょう。

子どもの日本語力は？

参加者H:子どもは家では中国語だけに触れ、学校では日本語に触れていますが、子どもの日本語の能力が不安です。

孫先生:そんなことはないです。私は逆にあなたが、家庭で日本語を教えていないかと不安です。というのは、あなたの日本語の能力は、どんなに話せてもやはり日本人とは違い、外国人が話す日本語になります。あなたは自信を持って中国語を話した方が、子どもの語学能力向上の助けになります。

子どもは学校で日本語のことばがわからなくても、すぐにわかるようになります。

読み書きできるようにするために大切なこと

参加者K:ピンインを習わせるのは重要ですか？

孫成志:重要ではないです。ピンインは中国国内でも教えていません。

参加者K:幼稚園でも教えていませんか？

孫成志:はい。省略しています。私も含め皆さんが小学校で習ったときと現在では大きく変化しています。ご存知でしたか？ 私たちが幼稚園や小学校で習ったときには、時間をかけて教わりました。現在は学校で遊びの一環として行われています。私たちのときには「国家」の「国」は「g・u・o」と習いましたが、今では直接「グウォ (guo)」という音で読まれます。ピンインで「g・u・o」ではないのです。

参加者G:そうは言っても、ピンインはパソコンに入力するときに必要なのでは？今、子どもに漢字を教えています、ピンインができなかったらパソコンが使えないのではありませんか？

孫成志:それは順番の問題です。私たちの今までの考え方では、ピンイン→漢字→文字入力の順番です。でも子どもは逆がいいのです。まずは漢字→ピンイン→文字入力。まずは漢字です。実際はピンインと文字入力は同じカテゴリーですね。

参加者G:でも、ピンインができなかったら自主的に中国語の学習ができなくなるのではないですか？私の質問の意味がわかりますか？

孫成志:わかります。あなたは子どもの自主学習の能力を養いたいのですよね。それは早すぎるのです。

参加者G:子どもにピンインの基礎がなかったら、順序どおりに教えられない……。

孫成志:あなたは、ご自分が中国で教わった順序どおりに子どもに教えようとしているのです。しかし、子どもが海外で育つとき、興味を持つということを第一に考えないといけません。そして文字に興味があれば、読める・書けるようにしてあげるのが先です。ピンインやパソコン入力はあとからでもいいのです。優先する順番は、中国国内で習ったときのようなピンインからひとつひとつ学ぶという順番ではないのです。

参加者L:中国語の試験を受けるときには？

孫成志:それを今考えるのは、早すぎます。

参加者L:私の夫は中国語をピンインから習いましたよ。

孫成志：そうです。外国人の成人が中国語を習うときには、私たちが習ったようにピンインから始めます。しかし、子どもが家庭内で話すときには、「聞いて話す」方が先なのです。ママのことばを理解して、ママと会話ができる。聞いて話すことができたら、読み書きをした方がいいのです。すべてを同時に行ったら子どもの負担が大きくなります。聞いて話せて、そして読めて、文字に興味を持ったら初めてピンインを教えたらいいのです。子どもにやりなさいと教えたら、子どもは嫌がります。この「嫌だ」という感覚を取り去らなければなりません。

こんな例があります。バイオリンの練習で、最初の頃は子どもは興味を持って練習をしていたのに、子どもが間違うと、親が子どもをたたくのです。そうすると、子どもはやらなくなります。どんなにたたいてもやろうとしないので、親は嘆き、ついには諦めざるを得ませんでした。「興味がある」というのが子どもにとって一番の「先生」なのです。勉強も同じです。最初に興味を抱かせ、それから難しいことを教えていけばいいのです。そうすれば、自分でやるという意識も芽生えます。

3か国語を学ばせたい

参加者M：私は3歳と0歳の子どもの母親です。マカオ出身です。2人の子どもは日本で生まれました。私は最初日本語がわかりませんでしたので、夫とはマカオのことばや普通語(中国語)で会話していました。子どもを保育所に入れているのですが、他の日本人の子どもは日本語がペラペラなのに、私の子どもは日本語習得が遅いのです。それで、私の夫は普通語と日本語が話せますので、家庭の中では普通語と日本語で話すようになりました。

でも、マカオにいる私の両親はマカオのことばしか話せません。ですから、私の子どもとの会話ができなくなりつつあります。これが私にとってとてもつらいのです。子どもは自分でことばを選ぶことができません。普通語も日本語もマカオのことばも使えるようになってほしいのです。できるようになるでしょうか？

孫成志：3歳の子どもに3か国語というのは負担が大きいです。ただし、最初に親子間で確認しておかなければならないのは、家庭内での言語を例えば「中国語」にすると決めておくことです。これは非常に重要なことなのです。そして日本語を「教える」ことはしてはいけません。あなたが日本語をどんなに上手に話せたとしてもやはり日本人が話すような日本語ではないのです。外国人が話す日本語なのです。ですから、あなたは中国語を話すのがいいのです。子どもは、家の外では日本語で表現し、家に帰ると中国語で話すのです。子どもはことばで混乱することはありませんし、負担にもなりません。

下の0歳の子どもに2か国語、中国語とマカオ語を教えるには今がいい時期です。ただしことばを混ぜて使ってはいけません、単語がマカオ語だったり、中国語だったりしてはいけません。例えば、状況に応じて使い分けてください。料理を作ったり食べるときには中国語で、寝る前の読み聞かせはマカオ語でなど、区別して使い分けるのがいいのです。国際結婚の人の場合もそうですが、「早く 吃饭 (ご飯を食べなさい)」というように、ひとつのフレーズに日本語と中国語を混ぜるのが一番いいです。

参加者M:私はこの点を間違っていました。

孫成志:2か国語を身につけさせるのには、両親も学習しなくてはなりません。一緒に本を読んだり、物語を話してあげたり、一緒に絵本や漫画を読んだりしてください。母親も成長していきます。時間をかけてください。今は語彙を増やしていくのです。

参加者N(日本人):私の知り合いでも小さい頃から4言語で育った人もいます。そうすると大人になってから、もっとたくさんの言語が簡単にできるようになります。その人は10言語くらいできるんです。無理ではないです。一言語の人よりは時間がかかりますが、長い目で見たら10年後くらいにはバランスがとれてくるので、できるところを褒めて伸ばしてあげるといいですね。

学習のタイミング

参加者M:タイミングのことを聞きたいのですが、うちの子は今3歳なんですけど、中国語と日本語が同じくらいできるのです。家の中では中国語だけと決めているのです。でも私はマカオのことばを子どもに教えたいのですが、今3歳なのですが教えるタイミングは?

孫成志:マカオのことばを教えるにはいつがいいかについてですが、今はその時期ではありません。3歳ですよ。先ほど子どもが2か国語を話せるとおっしゃっていましたが、それは簡単な受け答えのレベルです。例えば「その子どもはどうして〇〇したの?」というような問いには答えられません。基礎力を固めなければなりません。

でもマカオのことを話してみても、子どもが興味を持つ、面白いと感じるそれが一番よいタイミングです。決して無理強いをはいけません。

真 嶋:絶対これがいい、こうしなければならぬというルールはありませんけど、マカオの話をして興味を持ったなら、それがいいときなのだと思います。興味がなさそうだったら、もうちょっと待ってみてはどうですか?

参加者O:私の子どもは6歳と1歳8か月です。6歳の子に中国語を教えるタイミングを逃してしまいました。

孫成志:そういうときは、下の子どもを使って、上の子に影響を与えていくのです。下の子どもと中国語で話すのです。上の子はママが弟と中国語で話をすると最初は嫌がります。その後、だんだんとママが弟に話している内容がわかってきます。それがよいきっかけになってきます。そうしたら時間を決めて上の子と一緒に中国語の本を読んだり、ドラマや映画を見るとよくなってきます。

タイミングという問題はありますが、逃してしまったからもうダメだということはありません。どうやって子どもに中国語に対して興味を持たせるかが重要です。

子どもに興味を持たせる

参加者N(日本人):私の体験が役に立つかわかりませんが、私は日本人で、上海にいるときに子どもが2歳でした。皆さんと全く逆で、母語が日本語で、息子を中国で育てていました。息子は家では完全に日本語なのですが、バイリンガルとして育てたいと思っていました。しかし、小さい子にピンインを書かせたり、漢字を書かせたりすると嫌になってしまいます。それで、勉強していると思わせないように、いろいろな方法で中国語に触れさせました。たとえば、息子はポケモンのカードで遊ぶのが好きなので、日本語のカードと中国語のカードを与えて比べて遊べるようにしたり、ポケモンのマンガの中国語版を買い与えたりしました。中国にいる間の3年間は、中国語を聞いて話せたのですが、日本に帰って来てからは機会がなくなり、中国語を忘れてしまいました。しかし、小さい頃に聞いた発音は覚えているので、あとはどうやってそのことばを持続させるかを工夫しました。また、中国語を勉強することはいかに面白いのか、人生を豊かにするかを、ことあるごとに言い聞かせました。そして、中国に時々連れて行ったり、コミュニティーに連れていき、友達と一緒に会話させ、英語や中国語、日本語を使えることが楽しいと思えるような機会を与えるようにしました。あとは、大きくなって自分で勉強すればいいと思います。

孫成志:「タイミング」というと、どうやって中国語に興味を持たせるかがとても重要です。私の友人のケースを述べたいと思うのですが、友人は子どもが4～5歳のときに日本に来ました。その後、子どもは中国語を勉強しなくなりました。すると父親が黒板に「每晚7時から7時半までパパがママに中国語を教える」と書いたのです。子どもはパパとママが何をしているのかとても気になります。それで、子どもは少し興味を持ち少し勉強するようになりました。これは「教える」のではなく、興味があるから知りたいのです。その後毎晩少しずつ学習するようになりました。

ある母親は子どもに「中国語を使う場所がないのにどうして勉強しないといけないの?」と聞かれました。それで、子どもを連れて1～2週間中国に帰国しました。そこで中国語で遊んだり学習したりする機会をつくりました。それで、大変興味を持ったのです。日本に帰国後クラスメートに、中国に帰ってこんなことした、中国でこんな虫が出てきたよと大変誇らしげに面白そうに話したそうです。中国語を勉強する情熱に火が付きました。毎年中国へ帰ると面白いことがあるということで、興味も持続したのです。いかに興味を持たせるのがたいへん大事です。

参加者P:毎年一時期中国へ帰国するのもいいですが、私の場合、中国に親戚がいません。日本で小さい子どもと一緒に勉強できる塾のような、中国語を使う幼稚園など、短期間でもいいので、中国語の興味が持続できるような場所があるといいのですが。

孫成志:確かに、中国語の幼稚園などへ短期間行かせてみても、興味が出てくるきっかけになると思います。私のクラスメートの場合、日本で子どもを産み、子どもは小学校に入学したのですが、クラス内で外国人はその娘さんと韓国の女の子だけでした。中国語を使う機会がほとんどなく、心配した母親は家の中では日本語禁止というルールをつくり、定期的に中国人の友達を家に招きました。子どもも交えてお茶を飲むことで、中国語を聞いたり話したりする

機会を増やしました。そうしていると情報交換もできます。他に、行政や地域団体が行う中国関連のイベントなども利用できると思います。情報も探していかないといけません。

間違いに対して

参加者G:今、私の娘は、基本的なことはすべて聞いて理解できます。でも話すことができません。話せるようにするには、絵本を読んだり、質問して答えさせたり、映画を見たりしていけばだんだんと話せるようになるのですか？

孫成志:はい、できます。でもやはり時間はかかりますよ。最初のうちは子どもは単語でしか話せません。「うん」「食べる」「飲む」など。そして2語、3語と増えてきます、これをさせるだけでも時間がかかります。

参加者G:子どもが言い間違えたらどうしますか？ 例えば「食べるごはん」など、動詞と目的語が逆になってしまったら？

孫成志:大事なことなのですが、子どもの言い間違いを直してはいけません。あなたは子どもが言いたい意味がわかったら、そのままやり過ごします。そしてその間違えたところを、あなたが、覚えておきましょう。そして次に似たようなシチュエーションのときに、正しい言い方で言いましょ。子どもの言い間違いを正してはいけません。

参加者G:でも2回目も子どもが間違えたらどうしますか？

孫成志:構いません。数回続くでしょう。時間もかかります。でも、言い間違いを直したら、子どもは「もう次は言いたくない」となってしまいます。私たちが日本語を話すときでも同様です。せっかく話したのに批判されたら、次回からはそこに触れたくないと思うでしょう。言わなくなったり、別の言い方を使うようになるでしょう。それはことばを学ぶときによい方法ではありません。

日本で育つ中国人の子どもの場合、まず単語の数が日本の子どもよりも少ないですし、中国語も中国国内に住む中国人の子よりも圧倒的に少ないです。それは、当然のことです。でも、努力していれば、10年後には、中国語と日本語にさらに英語を加えても学習速度が速くなります。バイリンガルは視野も広がります。3～5歳ではその差はごく僅かです。今は子どものできないところにばかり目がいてしまいがちです。でも中学になると明らかに違ってくる。世界が広がります。長い目で見て頑張ってください。

母語保持教育講演会のお知らせ

外国から来て日本で子どもを育てているお父さん、お母さんへ
子どものことば 一母語と日本語の両方—を伸ばすために、
どうしたらいいでしょうか？

致在日本养育子女的外国人家长们
关于孩子们的语言—为了提高他们的母语和日语的能力，怎样做才好？

Kính gửi các vị phụ huynh nước ngoài đang nuôi dạy con ở Nhật Bản
Làm thế nào để nâng cao khả năng ngôn ngữ
- cả tiếng mẹ đẻ và tiếng Nhật- của con?

Para papás y mamás que son del extranjero y que están criando a sus hijos en Japón:
¿Qué debemos hacer para que nuestros hijos puedan desarrollar su lenguaje —
ambos el japonés y la lengua materna?

For foreign-born Parents who are raising children in japan,
how can you improve your child's language skill
- in both their Mother tongue and Japanese-?

子どもは、日本語も母語も話せるようになってほしいけど、どうしたらいい？
我希望孩子会说两种语言，怎么办好呢？
Mong con nói được cả tiếng Nhật và tiếng mẹ đẻ mà không biết làm sao!
Para lograr que mi hijo sea bilingüe del japonés y la lengua materna... ¿qué debo hacer?
I want my children to speak both their mother tongue and Japanese, but don't know what to do.

子どもに母語で話すのかわいい？日本語で話すのかわいい？
和孩子说话，用汉语好还是用日语好？
Mình nên nói chuyện với con bằng tiếng mẹ đẻ hay tiếng Nhật?
¿En qué idioma debemos hablar a nuestros hijos... en japonés o en español?
Should I speak in my mother tongue? Or in Japanese?

授業がよくわからない。
上课内容听不懂。
Không hiểu nội dung bài học lắm.
No entiendo bien el estudio de la clase.
I don't understand my class!



お母さんが何を怒っているかわからない。
我不明白妈妈为什么生气。
Con không hiểu mẹ mắng gì!
No entiendo por qué está enojada mi mamá...
I don't understand what my mother is getting angry!



日時: 7月6日 午後2時~4時30分
会場: 市民交流センターひらの
(平野区平野市町3-8-22)
主催: にほんごサポートひまわり会
協力: 平野区社会福祉協議会、
和っしょい! ひらの推進委員会



外国から来て日本で子どもを育てているお父さん、お母さんへ

子どものことを育てるために、いろいろな悩みがあることでしょう。「うちの子は、日本語はできるけど、母語はあまりできないので、親子でしゃべることができない」、「学校のことをほとんど話してくれない」、「学校の勉強についていけない」、「日本語も母語も話せるようになってほしい」、「家で日本語を使ったほうがいいのか、母語を使ったほうがいいのか」など。

それで、専門家の先生のお話を聞き、話し合います。どうぞ、来てください。

【対象】日本で外国につながる子どもを育てている外国人のお父さん・お母さんとその家族

【日・時間】2014年7月6日（日曜日）午後2時から4時30分

【場所】市民交流センターひらの（大阪市平野区平野市町3-8-22） 2階201号室

【先生】真嶋潤子先生（大阪大学大学院言語文化研究科教授。専門は外国にルーツのある児童生徒への言語教育など）

さくらい ぼせんせい おおさかだいがくしょうへいけんきょういん にほんがくじつしんこうかいよくべつけんきょういん せんもん たげんごかんきょう そだ こ
櫻井千穂先生（大阪大学招聘研究員、日本学術振興会特別研究員。専門は多言語環境に育つ子どもたちの母語保持伸長と日本語習得など）

せんせい しんせいおおさかだいがくこくさいこうりゅうかくよくべつけんきょういん せんもん にほんごきょうと たげんごかんきょう そだ ちゅうごくじんじどうせいと ぼごほししんちゅう
孫成志先生（大阪大学国際交流課特別研究員。専門は日本語教育と、多言語環境に育つ中国人児童生徒の母語保持伸長など）

【ことば】先生はやさしい日本語で話します。中国語、スペイン語、ベトナム語の通訳がきます。

（そのほかのことばの通訳がいる人は、申込みの時に連絡してください。早く連絡してください）

【参加費】お金はかかりません。

【定員】50人（先着順）

【申込み】FAXまたはmailで申し込んでください。

FAX：このチラシの最後の申込書に記入してFAXしてください（06-4302-9943）

mail：申込書の内容（①～⑧）を書いて、件名に「7/6もうしこみ」と書いて送ってください。（himawarij1511@gmail.com）

【一時保育】小さい子どもを連れて来てでもいいですが、申込みの時にかならずそのことを書いてください。

先生のお話の間、子どもはボランティアといっしょに別の部屋で遊びます。

【主催】にほんごサポートひまわり会 E-mail: himawarij1511@gmail.com TEL: 090-6676-5839

【協力】平野区社会福祉協議会、和っしょい！ひらの推進委員会

致在日本养育子女的外国人家长们

为了培养孩子的语言，一定会有许多烦恼吧。“我的孩子会日语，但不太会说母语，父母和孩子之间的会话不够充分。”“孩子很少跟我讲学校的事。”“学校的课程跟不上。”“希望孩子能说日语也能说母语。”“在家里说日语好，还是说母语好？”等。因此，我们请了专家，听听他们的讲话并请教他们吧。请踊跃参加！

【参加对象】在日本生活的，与国外有关系的，正在养育子女的外国人父母们及其家族。

【日期和时间】2014年7月6日星期日 下午 两点至4点半

【地点】市民交流センターひらの（大阪市平野区平野市町3-8-22） 2楼201号房间

【讲师】真嶋潤子老师（大阪大学大学院言語文化研究科教授。专门研究有国外关系的学童的语言教育等）

櫻井千穂老师（大阪大学特約研究員、日本学术振興会特別研究員。专门研究在多语言环境中如何提高孩子的母语能力和学会日语等。）

孫成志老师（大阪大学国際交流科特別研究員。专门研究日语教育和在多语言环境中如何提高中国人学童的母语能力等。）

【语言】讲师们使用简单易懂的日语讲演。并配备了中国语、西班牙语、越南语的翻译。

如需要其它语言的翻译，请在报名时尽早告诉我们。

【费用】免费参加 【定员】50名（按报名先后为顺序）

【报名】可用传真和电子邮件报名。 传真：请填写后面的申请书，然后用传真传来。传真号码是 06-4302-9943

电子邮件：请填写申请书的内容（①～⑧）；邮件名请写上“7月6日もうしこみ”。

请将邮件寄往 himawarij1511@gmail.com

【临时保育】可以带小孩子来，申请时一定写明。父母听讲时讲演的时间，安排孩子们在另外的房间里和志愿者一起玩耍。

【主办单位】にほんごサポートひまわり会 E-mail: himawarij1511@gmail.com TEL: 090-6676-5839

【協力】平野区社会福祉協議会、和っしょい！ひらの推進委員会

Kính gửi các vị phụ huynh nước ngoài đang nuôi dạy con ở Nhật Bản

Có thể bạn lo lắng về khả năng ngôn ngữ của con như “Con mình nói được tiếng Nhật mà không thể nói được tiếng mẹ đẻ, vì vậy hai vợ chồng mình và con không thể nói chuyện nhiều với nhau”, “Con mình không hay kể chuyện về trường với mình”, “Con mình có vẻ khó theo kịp nội dung bài học”, “Mong rằng con mình có thể nói được cả tiếng Nhật cả tiếng mẹ đẻ”, “Ở nhà mình nên nói chuyện với con bằng tiếng Nhật hay tiếng mẹ đẻ?” v.v. . .

Hãy đến đây để nghe và thảo luận cùng các chuyên gia về vấn đề này.

【Đối tượng】 Phụ huynh hoặc gia đình nước ngoài đang nuôi dạy con ở Nhật Bản

【Ngày giờ】 Mùng 6 Tháng 7 Năm 2014 (CN) 2 giờ đến 4 giờ 30 chiều

【Địa điểm】 Phòng 201, tầng 2, Trung tâm giao lưu Hirano (3-8-22 Hiranoichimachi, Quận Hirano, Thành phố Osaka)

【Người thuyết trình】

- Giáo sư MAJIMA, Junko (Giáo sư Khoa Ngôn ngữ và Văn hóa, ĐH Osaka. Chuyên nghiên cứu về giáo dục ngôn ngữ cho trẻ em nước ngoài đang sống ở Nhật)
- Tiến sĩ SAKURAI, Chiho (Nghiên cứu viên ĐH Osaka, nghiên cứu viên Hội khuyến khích khoa học Nhật Bản, Chuyên nghiên cứu về việc nâng cao khả năng tiếng mẹ đẻ và giáo dục tiếng Nhật dành cho trẻ em sống trong môi trường đa ngôn ngữ)

- Tiến sĩ Tôn Thành Chí (Nghiên cứu viên Khoa Giao lưu Quốc tế, ĐH Osaka. Chuyên nghiên cứu về giáo dục tiếng Nhật và việc duy trì và nâng cao khả năng tiếng mẹ đẻ dành cho trẻ em Trung Quốc sống trong môi trường đa ngôn ngữ)

【Ngôn ngữ】 Người thuyết trình sẽ sử dụng tiếng Nhật dễ hiểu. Có người phiên dịch tiếng Trung Quốc, tiếng Tây Ban Nha và tiếng Việt. (Trong trường hợp bạn yêu cầu phiên dịch ngôn ngữ khác, hãy yêu cầu khi liên hệ đăng ký tham gia. Liên hệ càng sớm càng tốt).

【Chi phí】 Miễn phí **【Số người tham gia】** 50 người (theo thứ tự đăng ký)

【Cách đăng ký】 Hãy đăng ký bằng cách gửi FAX hoặc mail

FAX: Hãy điền vào mẫu đơn bên dưới tờ quảng cáo này và gửi FAX theo số 06-4302-9943

MAIL: Hãy viết những nội dung trong mẫu đơn và gửi mail theo địa chỉ himawarij1511@gmail.com. Hãy điền “7/6もうしこみ” (Đăng ký tham gia 6/7) vào ô chú đề.

【Dịch vụ chăm con】 Bạn có thể đưa trẻ đến hội trường. Trong trường hợp đó hãy cho biết khi đăng ký.

※ Trong khi bạn nghe thuyết trình, chúng tôi sẽ chăm sóc trẻ em ở phòng khác.

【Đơn vị tổ chức】 Hội hỗ trợ tiếng Nhật Himawari

【Thông tin liên lạc】 email: himawarij1511@gmail.com, TEL.: 090-6676-5839

【Đơn vị hợp tác】 Hội đồng phúc lợi xã hội Quận Hirano, Hội Wassyoi! Hirano

Para papás y mamás que son del extranjero y que están criando a sus hijos en Japón:

Por el desarrollo de lenguaje de sus hijos, Uds. tendrían diversas preocupaciones o inquietudes: “Ellos hablan bien el japonés, pero no tanto la lengua materna, pues no nos podemos comunicar suficientemente entre padres e hijos.” “No quiere contarme casi nada de su vida escolar.” “No entiende lo que está estudiando en el colegio.” “Desearíamos que logran ser bilingües de japonés y español.” “¿En qué idioma debemos hablar en casa... en japonés o en nuestra lengua materna?” etc.

Con tal motivo, vamos a tener una reunión para escuchar una conferencia de especialistas en el tema, e intercambiar opiniones.

¡Esperamos su participación!

【Participantes】 Para padres y madres que son del exterior

y que están criando en Japón a sus hijos con raíces en el extranjero, y su familia.

【Fecha y hora】 6 de julio (domingo) de 2014, 14:00—16:30

【Lugar】 SHIMIN KORYU CENTER HIRANO, 2do. piso [salón 201] (3-8-22, Hirano-ichimachi, Hirano-ku, Osaka-shi)

【Conferencistas】 Prof. Junko Majima (Profesora de Facultad de cultura lingüística, de Posgrado de Universidad de Osaka.

Especialista de educación lingüística para niños con raíces en el extranjero)

Prof. Chiho Sakurai (Investigadora visitante de Universidad de Osaka, investigadora de Asociación Japonesa para Promoción de Ciencias. Especializada en el mantenimiento y desarrollo de lengua materna y el aprendizaje del japonés de niños que crecen en ambiente multilingüe)

Prof. Son Seisi (Investigador de Departamento de intercambio internacional de Universidad de Osaka. Especializado en la enseñanza del japonés, y el mantenimiento y desarrollo de lengua materna de alumnos chinos que crecen en ambiente multilingüe)

【Idiomas que se usarán en la conferencia】 Las conferencistas hablarán en japonés fácil.

Habrá intérpretes de chino, español y vietnamita.

(Si necesita intérprete de otro idioma, por favor avíselo cuanto antes, en el momento de inscripción.)

【Entrada】 Gratis **【Número de plazas】** 50 personas (por orden de inscripción)

【Cómo participar】 Inscribirse por fax o mail.

Fax) Rellenar el formulario de inscripción adjunto y enviarlo por facsímil a 06-4302-9943.

Mail) Informar del mismo contenido del formulario, con título de 「7/6 MOUSIKOMI (inscripción)」, a himawarij1511@gmail.com

【Guardería temporal】 Pueden participar con niños pequeños; por favor avísenlo sin falta en el momento de inscripción.

Los niños podrán jugar con los voluntarios en otra sala, mientras Uds. padres escuchan la conferencia.

【Organizador】 NIHONGO support HIMAWARIKAI mail: himawarij1511@gmail.com tel: 090-6676-5839

※Esta conferencia se dará con la cooperación de Asociación de bienestar social de Hirano-ku y “Wasshoi Hirano”.

For Parents from foreign countries, raising children in Japan.

You may have a lot of concerns about your children's language skill. For examples, "My children can speak Japanese, but not their mother tongue, so it's hard for us to communicate well.", "Since my children rarely talk to me about school, I wonder if they can keep up with the curriculum.", "I want my children to speak both their mother tongue and Japanese.", "Should we speak Japanese, or our mother tongue at home?" and so on.

Therefore, we invite you to come and discuss your problems with our experts. So please join us!

[Participants] Foreign-born parents who are living in Japan or their immediate family.

[Date and Time] July 6, 2014 Sunday, 14:00 to 16:30

[Location] Simin Kouryu Center Hirano (Osaka, Hirano Ku, Hiranoichimachi 3-8-22) 2nd Floor, Room 201

[Lecturer] Junko Majima (Graduate School of Language and Culture Studies in Osaka University. Specializes in teaching language to foreign children.)

Sakurai Chiho (Researcher at Osaka University, Special Researcher in the Japan Society for the Promotion of Science. Specializes in developing the mother language and Japanese skills of children who are raised in a multi-language environment.

Son SeiSi (Special Researcher in Osaka University International Exchange Division. Specializes in Japanese and teaching Chinese to Chinese children who are raised in multi-language environment.)

[Language] Lecturers will speak in simple, easy Japanese, Translation in Chinese, Spanish and Vietnamese are also available. For those who need translation in other languages, please inform us at the time of registration.

[Fee] free of charge [Capacity] 50 (on a first come, first serve basis.)

[Registration] registration by fax or e-mail

Fax : Please fill in the application form , and fax to 06-4302-9943

Email: Please fill in application form (question ① - ⑧) and email to himawarijl511@gmail.com with subject title "7/6 MOUSIKOMI"

[Child care services] Child care is available on that day only. Please inform us on the application.

During the session, children will be taken care of by volunteers in another room.

[Organizers] Nihongo Support Himawari-kai. E-mail: himawarijl511@gmail.com TEL :090-6676-5839

[Cooperation by] Hirano District Social Welfare Council ; Wasshoi! Hirano Promotion Committee

和っしょい！ひらの
事務局 行き

FAX: 06-4302-9943

下の表に書いて、FAXしてください。 FAX:06-4302-9943

请填写后用传真传送 传真号码: 06-4302-9943

Điền vào mẫu đơn bên dưới và gửi FAX theo số 06-4302-9943

Replene el formulario y envíelo por facsimil a 06-4302-9943

Please fill in this form and fax. to 06-4302-9943

申込書(もうしこみしょ) / 报名表 / Mẫu đơn / Formulario de inscripción / Application Form	
① お名前 / 姓名 / Họ tên / Nombre / Name	② 電話番号 / 电话号码 / Số điện thoại / Teléfono / Phone Number
③ ご住所 / 住址 / Địa chỉ / Dirección / Address	④ 出身国 / 出身地 / Nơi sinh / País originario / Country of Origin
⑤ あなたの子どもの人数と年齢 / 你有几个孩子? 他(她)几岁? / Số người và tuổi của con bạn / ¿Cuántos hijos tiene? ¿De qué edad? / How many children do you have? How old are they?	
⑥ 何語の通訳がいらしますか 需要哪国语的翻译? Bạn cần phiên dịch ngôn ngữ nào? ¿De qué idioma necesita intérprete? Which translation do you need? <input type="checkbox"/> 通訳はいらない <input type="checkbox"/> 中国語 <input type="checkbox"/> スペイン語 <input type="checkbox"/> ベトナム語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 我懂日语, 不要翻译 <input type="checkbox"/> 汉语 <input type="checkbox"/> 其他() <input type="checkbox"/> Tôi hiểu tiếng Nhật, vì vậy không cần phiên dịch. <input type="checkbox"/> Tiếng Việt <input type="checkbox"/> Ngôn ngữ khác (Tiếng) <input type="checkbox"/> No necesito intérprete. <input type="checkbox"/> Español <input type="checkbox"/> Otro () <input type="checkbox"/> Translation not required <input type="checkbox"/> English <input type="checkbox"/> Other ()	
⑦ 子どものことばのことや心配なこと、先生に聞きたいこと(何語で書いてもいいです) 关于孩子的语言你担心什么? 有什么问题想问吗? (用中文或者用日文写都可以。) Hãy viết những lo lắng của bạn liên quan đến ngôn ngữ của con. (Dùng tiếng Nhật, tiếng Việt đều được.) Del lenguaje de su hijo/a, ¿tiene alguna preocupación o algo que quiere consultar a las profesoras? (Puede escribirlo en cualquier idioma que le convenga.) Problems and concerns to be discussed with the lecturers. (please write in any language)	
⑧ 当日連れて来る子どもの人数と年齢 当天带几个孩子? 他(她)几岁? Số người và tuổi của trẻ bạn đưa đến lớp học ¿Va a participar con su(s) hijo/a(s)? (número de niños y su edad) Number of children and their respective ages who are to attend the class. <input type="checkbox"/> 子どもは連れて行かない <input type="checkbox"/> 子どもを連れて行く(人、 歳、 歳) <input type="checkbox"/> Hôm đó tôi không đưa con cùng đi. <input type="checkbox"/> Tôi đưa (người, tuổi, tuổi). <input type="checkbox"/> No, no voy a llevar a niño/a(s). <input type="checkbox"/> Sí, voy con niño/a(s). (años, años de edad) <input type="checkbox"/> without children <input type="checkbox"/> with child(child(ren), years old years old)	

<p>写给来自国外并在日本抚养儿童的父母们</p> <p>如何提高孩子的语言能力</p> <p>- 关于母语和日语的教育问题 -</p> <p>真嶋润子 (大阪大学)</p> <p>日语支援 向日葵会 “保持母语教育演讲”</p> <p>2014年7月6日 於: 市民交流中心平野</p>	<p>外国から来て日本で子どもを育てているお父さん、お母さんへ</p> <p>子どものことを伸ばすために</p> <p>一 母語と日本語の教育について</p> <p>真嶋潤子 (大阪大学)</p> <p>「ほんごサポートひろまがり会」母語保持教育講演会</p> <p>2014年7月6日 於: 市民交流センターひらの</p>
<p>演讲的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 讲义 <ul style="list-style-type: none"> ● 母语的重要性 ● 双语的种类 ● 双语的相关要素 ● 两种语言之间的关系 ● 成功事例 <ul style="list-style-type: none"> ● 跨国婚姻 ● 中国家庭 ● 各位家长力所能及之事 ● 分组讨论及经验交流 (櫻井千穂、孙成志) 	<p>本日の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 講義 <ul style="list-style-type: none"> ● 母語の重要性 ● バイリンガルの種類 ● バイリンガルに関係する要素 ● 二言語の関係 ● 成功事例 <ul style="list-style-type: none"> ● 「国際結婚」の場合 ● 中国家庭の場合 ● 保護者ができること ● グループディスカッションと経験談 (櫻井千穂、孫成志)

语言达标程度的种类 (中島 2001)



单个车轮也可以……



大车轮和小车轮也可以……



但是，当车轮大小平衡且充分鼓起时，可以跑得更快……



但是，当然不是这样，

げんごとうたつど しゆるい 言語到達度の種類 (中島 2001 より)



げんごの準備でも行けるよ……



笑みの準備とぞうきんも準備でもいよいよ……



でも、準備がフランスがとれていて、本番らんないければ、もっと速くまで行ける……



でも、もちろんこころがなれば、

母语的重要性

- 子女与父母・家人间的纽带 → 心态平稳
- 学习能力・思考能力・认知能力的基础
- 身份认同的基础
- 维护母语是一种权利
- 未来居住地的选择 (回国生活的可能性)

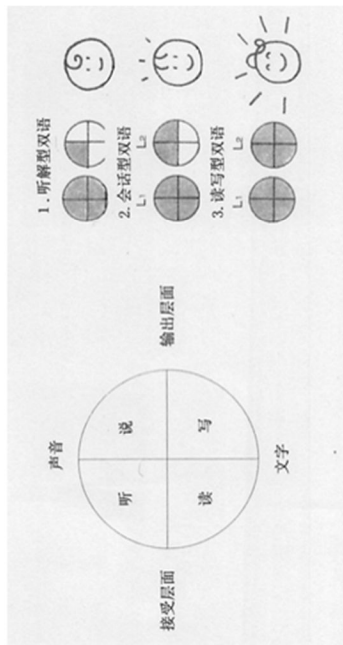
ほご じゅうようせい 母语的重要性

- おやこ かぞく きずな 親子・家族の絆 → こころ 安心 心の安定
- まな ちから かんが ちから にんりき 学ぶ力・考える力・認知力的基础
- アイデンティティの基盤
- けんり 権利としての母语保証
- しごらい きよせうち せんたくし ほこく す 将来の居住地の選択肢 (母国に住む可能性)

双语的相关要素

- 孩子的情况
 - 来日本时的年龄(在日本出生/赴日年龄:是否接受过母语的学校教育?)
 - 在日本的滞留年数
 - 母语的水平(在祖国/国外的学校教育经历)
 - 性格(外向型、爱说话、稳重……)
 - 兄弟姐妹
- 家长的情况
 - 经济状况
 - 花费在孩子身上的时间(质量和数量)
 - 语言能力(日语的水平)
 - 教育方针、未来规划
- 周围的人
 - 孩子的祖父母等
 - 保育士、学校教师、其他社区团体的人们

语言的4种技能及双语的种类



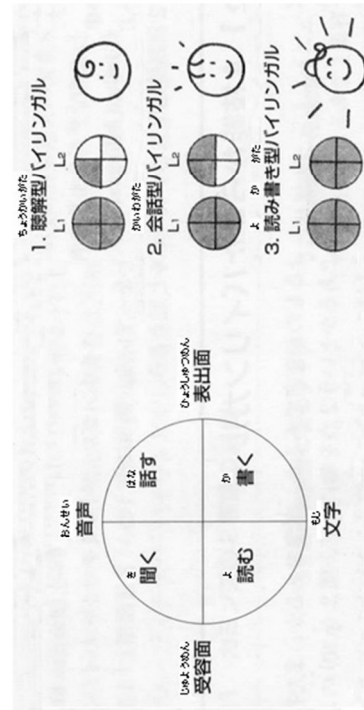
バイリンガルに関係する要素

かんげい ようそ

- 子どもの状況
 - 日本に来た時の年齢 (日本生まれ/渡日年齢: 母語での学校教育?)
 - 日本での滞在年数
 - 母語力のレベル (母国/外国での学校教育経験)
 - 性格 (外交的、話し好き、慎重……)
 - 兄弟姉妹
- 保護者の状況
 - 社会経済的状況
 - 子どもに費やせる時間(質と量)
 - 言語能力(日本語力)
 - 教育方針、将来計画
- 周りの人々
 - 子どもの祖父母等
 - 保育士、学校教員、その他コミュニティの人々

言葉の4技能とバイリンガルの種類

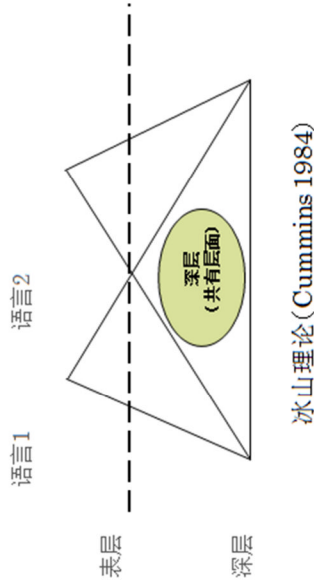
しゅるい



成功事例 1

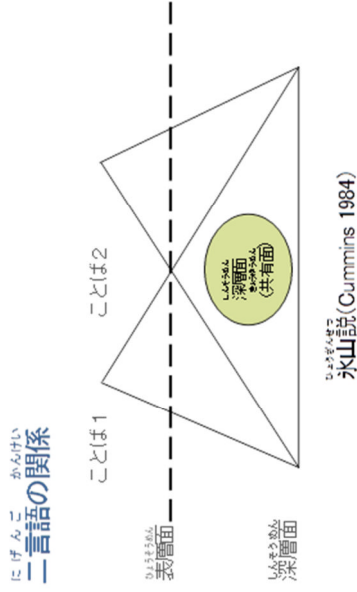
- 跨国婚姻的家庭
- 今年4岁，目前为完全读写型双语
- 父亲：日本人 母亲：台湾人
- 家庭内部语言
- 祖父母、亲戚们的理解
- 使用两种语言对话 + 读故事给孩子听
- 居住环境

两种语言之间的关系



成功事例 1

- 国際結婚家庭
- 4歳児で現在のところ完全読み書き型バイリンガル
- 父：日本人 母：台湾人
- 家庭内言語
- 祖父母、親戚の理解
- 2言語での会話 + 読み聞かせ
- 住居



各位家长力所能及之事

- 跨国婚姻的话，要坚持“**一个人一门语言**”的原则
- 以培养**平衡型双语**的孩子为目标(会读写的话更有优势)
- 尽量多让孩子接触**母语**的**书籍** (**文字**信息)
- 父母要使用并将自己擅长的语言**充满自信**地传递给孩子
- 尽量让父母及周围人(学校相关人员等)理解**母语的重要性**
- 即使不完美，贵在“**坚持**”

成功事例2

- 中国家庭の小学生
- 在日本出生
- 小学1年級時，两种语言都有问题
- 小学5年級時，两种语言都是读写型双语
- 借助录像・电视节目的“字幕”，学会了读中文
- 中文的语言优势也帮助了日语能力的提高

保護者ができること

- 国際結婚の場合の「**一人一言語**」のルール
- バランス・バイリンガル(バイリテラル)を自指す(読み書きできると強い)
- 子どもが**母語の本(文字情報)**にアクセスできるようにする
- 親は自分の得意な言語を(得意な言語で)**自信を持って**子どもに伝える
- 母語の大切さについて、保護者、周りの人々(学校関係者等)の理解を得る
- 完璧でなくても、「**継続**」することが大切

成功事例2

- 中国家庭の小学生
- 日本生まれ
- 小1で2言語に問題
- 小5で2言語が読み書き型バイリンガルになった
- ビデオ・テレビ番組の「字幕」から中国語が読めるようになった
- 中国語が優勢で、日本語力もアップ

<p>Kính gửi các vị phụ huynh người nước ngoài đang nuôi dạy con ở Nhật Bản</p> <p>Làm thế nào để nâng cao khả năng ngôn ngữ của con cái -Cả tiếng mẹ đẻ và tiếng Nhật-</p> <p>MAJIMA Junko (Đại Học Osaka)</p> <p>Buổi thuyết trình về giáo dục tiếng mẹ đẻ, Hội hỗ trợ tiếng Nhật Himawari Ngày 6 Tháng 7 Năm 2014, Tại Trung tâm giao lưu Hirano</p>	<p>がごこ くにまん こ びん び けい けい 外国から来て日本で子どもを育てているお父さん、お母さんへ</p> <p>子どものことを伸ばすために</p> <p>一母語と日本語の教育について</p> <p>まじまじみんこ けいけいだいがく 真島 Junko (大阪大学)</p> <p>にほんごがぽーとひまわりかい「母語保持教育講演会」 しんごごがけい 2014年7月6日 於:市民交流センターの</p>
<p>Nội dung thuyết trình hôm nay</p> <ul style="list-style-type: none"> • Thuyết trình <ul style="list-style-type: none"> - Tâm quan trọng của tiếng mẹ đẻ - Phân loại tình hình song ngữ - Những yếu tố ảnh hưởng tới tình hình song ngữ - Mối quan hệ giữa hai ngôn ngữ - Một số ví dụ tốt <ul style="list-style-type: none"> • Trong trường hợp kết hôn quốc tế • Trong trường hợp gia đình người Trung Quốc - Những điều bố mẹ có thể làm cho con cái • Trao đổi từng nhóm và chia sẻ kinh nghiệm (SAKURAI Chihō, Tôn Thành Chú) 	<p>ほんじつ ないよう 本日の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> • 語彙 母語の重要性 • バイリンガルの種類 • バイリンガルに關係する要素 • 二言語の關係 • 成功事例 <ul style="list-style-type: none"> • 「国際結婚」の場合 • 中国家庭の場合 • 保護者ができること <ul style="list-style-type: none"> • グループ別自由談話経験談 (櫻井千穂 孫成志)

Phân loại trình độ thụ đắc ngôn ngữ (Nakajima 2011)



Có thể đi bằng một bánh...



Có thể đi bằng một bánh lớn và một bánh nhỏ...



Nhưng nếu có hai bánh cỡ lớn như nhau và đây hơi thì có thể đi đến xa hơn...



Miền là không bị thế này.

げんごうたつど しゆるい 言語到達度の種類 (中島 2001 より)



1つの車輪でも行けるよ……



笑みの車輪と小さな車輪でもいよ……



でも、車輪がバランスがとれていて、水漕が回っていれば、もっと速くまで行ける……



でも、もちろんこの方が好ければ。

Tâm quan trọng của tiếng mẹ đẻ

- Giữ gìn và làm tăng sự gắn kết giữa cha mẹ và con cái → Ôn định tinh thần cho con cái
- Làm cơ sở cho khả năng học tập, khả năng suy nghĩ và khả năng trí nhận
- Làm nền móng cho lòng tự hào về bản thân
- Bảo đảm quyền lợi được học tiếng mẹ đẻ của con cái
- Thêm sự lựa chọn về nơi ở trong tương lai của con cái (Có thể sống ở nước của bố mẹ)

ぼご しゅうようせい 母語の重要性

- おやこ かぞく ますな こころ あんてい
親子・家族の絆 → 心の安定
- まな ちから かんが ちから にんちりよく きせき
学ぶ力・考える力・認知力の基礎
- アイデンティティの基盤
- けんり ぼご ほんご
権利としての母語保証
- しゅうらい きよじゆある せんたくし ぼこく す かのうせい
将来の居住地の選択肢(母国に住心可能性)

Những yếu tố ảnh hưởng tới tình hình song ngữ

- **Tình hình con cái**
 - Tuổi khi sang Nhật Bản (Sinh ra ở Nhật Bản hay sang Nhật Bản lúc mấy tuổi, liệu đã từng được đi học ở đất nước của bố mẹ hay chưa v.v...)
 - Thời gian ở Nhật Bản
 - Trình độ tiếng mẹ đẻ (Liệu đã từng được đi học tại đất nước của bố mẹ hoặc nước ngoài hay không?)
 - Tình cách (Thích giao tiếp với những người khác, thích nói chuyện, cần thận...)
 - Có anh chị em hay không
- **Tình hình bố mẹ**
 - Tình hình kinh tế
 - Thời gian tiếp xúc với con cái (cả chất lượng lẫn thời lượng)
 - Khả năng ngôn ngữ (khả năng tiếng Nhật)
 - Phương châm giáo dục, kế hoạch tương lai
- **Những người xung quanh**
 - Ông bà
 - Giáo viên nhà trường, những người thuộc cộng đồng trong khu vực v.v..

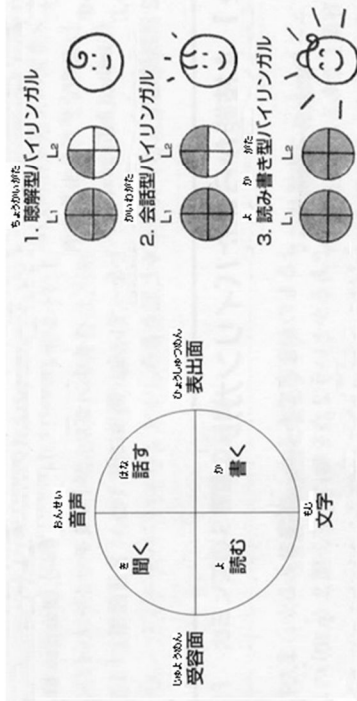
4 kỹ năng ngôn ngữ và phân loại tình hình song ngữ

1. Song ngữ ở mặt kỹ năng nghe
 - Li
 - Li
 - Li
 2. Song ngữ ở mặt kỹ năng nghe nói
 - Li
 - Li
 - Li
 3. Song ngữ ở mặt kỹ năng đọc viết
 - Li
 - Li
 - Li
- Âm thanh
- Nghe
- Nói
- Đọc
- Viết
- Tiếp thu lại
- Biểu hiện ra
- Chữ cái

バイリンガルに関係する要素

- **子どもの状況**
 - 日本に来た時の年齢 (日本語での学校教育?)
 - 日本での滞在年齢
 - 母語のレベル (母国/外国での学校教育経験)
 - 性格 (外交的、話し好き、慎重...)
 - 兄弟姉妹
- **保護者の状況**
 - 社会的経済的地位
 - 子どもに聴ける時間 (質と量)
 - 言語能力 (日本語力)
 - 教育方針、将来計画
- **周りの人々**
 - 子どもの祖父祖母
 - 保母士、学校教員、その他コミュニケーションの人々

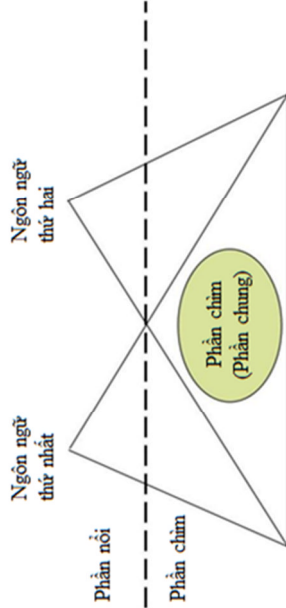
言葉の4技能とバイリンガルの種類



Một số ví dụ tốt (1)

- Một trường hợp của gia đình kết hôn quốc tế
- Em bé 4 tuổi với tình hình song ngữ kỹ năng đọc viết tốt
- Bố: Người Nhật, Mẹ: Người Đài Loan
- Ngôn ngữ trong nhà
- Ông bà, họ hàng hiểu tâm quan trọng của tiếng mẹ đẻ
- Nói chuyện và đọc truyện bằng 2 ngôn ngữ
- Nhà ở

Mối quan hệ giữa hai ngôn ngữ

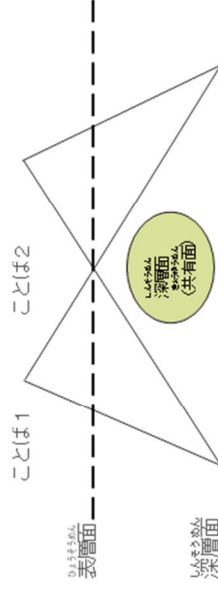


Thuyết tảng băng trôi (Cummins 1984)

せいこうじれい 成功事例 1

- 国際結婚家庭 (International marriage family)
- 4歳児で現在のところ完全読み書き型バイリンガル (4-year-old child, currently a complete reading/writing type bilingual)
- 父:日本人 母:台湾人 (Father: Japanese, Mother: Taiwanese)
- 家庭内言語 (Family language)
- 祖父母、親戚の理解 (Understanding of grandparents and relatives)
- 2言語での会話+読み聞かせ (Conversation in 2 languages + reading aloud)
- 住居 (Residence)

にげんご かんけい 二言語の関係



しょうざんせう
氷山説 (Cummins 1984)

Những điều bố mẹ có thể làm cho con cái

- Quy tắc “**mỗi người một ngôn ngữ**” trong gia đình kết hôn quốc tế
- Có mục tiêu là cho con trở nên **song ngữ kỹ năng đọc viết (giỏi cả hai kỹ năng đọc và viết)**
- Có gắng tạo môi trường và điều kiện để con **đọc sách bằng tiếng mẹ đẻ**
- Sử dụng ngôn ngữ của mình **một cách tự tin** để truyền đạt cho con
- Làm cho những người phụ huynh, những người xung quanh (những người trong trường v.v..) hiểu về tầm quan trọng của tiếng mẹ đẻ
- Có gắng “**tiếp tục**” dù không hoàn hảo

Một số ví dụ tốt (2)

- Một trường hợp của em học sinh tiêu học trong gia đình người Trung Quốc
- Em được sinh ra ở Nhật Bản
- Lúc học lớp 1, có vấn đề với cả hai ngôn ngữ
- Lúc học lớp 5, đã trở nên song ngữ kỹ năng đọc viết
- Thông qua phụ đề của chương trình Video, Tivi tiếng Trung Quốc, em này đã học đọc tiếng Trung Quốc
- Hiện nay em này tiếng Trung Quốc mạnh hơn, nhưng khả năng tiếng Nhật cũng ngày càng giỏi lên.

保護者ができること

- 国際結婚の場合の「一人一言語」のルール
- バランスバイリンガル(バイリテラル)を目指す(読み書きできると強い)
- 子どもが**母語の本(文字情報)**にアクセスできるようにする
- 親は自分の**得意な言語**(得意な言語で**自信**を持って子どもに伝える)
- 母語の大切さについて、保護者、周りの人々(学校関係者等)の理解を得る
- 完璧でなくても、「**継続**」することが大切

成功事例2

- 中国人家庭の小学生
- 日本人まれ
- 小1での言語の問題
- 小5で2言語が読み書き型バイリンガルになった
- ビデオ・テレビ番組の「字幕」から中国語が読めるようになった
- 中国語が優勢で、日本語かもアップ

<p>Para los padres extranjeros que están educando a sus hijos en Japón:</p> <p style="text-align: center;">Para cultivar el lenguaje de los niños</p> <p style="text-align: center;">— La enseñanza de la lengua materna y el japonés —</p> <p style="text-align: center;">Por : Junko Májima (Universidad de Osaka)</p> <p style="text-align: right;">Nihongo Support HIMAWARE-KAI 2014.7.6 en Shinjin Koryu Center Hirano</p>	<p>がくに 外国から来て日本へ にほんこ 日本へ こども 子供 おとうさん 父さん おはなさん 母さんへ</p> <p style="text-align: center;">子どものことを伸ばすために</p> <p style="text-align: center;">— 母語と日本語の教育について —</p> <p style="text-align: right;">まじまひんこ 真島眞子 おほたけい 大阪大学</p> <p style="text-align: right;">にほんこがわにほんこ にほんご 日本語 おはなさん 母さん おとうさん 父さん にほんごをまもる 日本語を保持する おはなさん 母さん おとうさん 父さん にほんごをまもる 日本語を保持する</p> <p style="text-align: right;">2014年7月6日 於:市民交流センターの</p>
<p style="text-align: center;">Programa de hoy</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Conferencia ● Importancia de la lengua materna ● Tipos de bilingüismo ● Factores relacionados a bilingüismo ● Relación entre las dos lenguas ● Casos que han dado buen resultado <ul style="list-style-type: none"> ● de “matrimonio internacional” ● de “familia china” ● Lo que pueden hacer los padres ● Consultas en grupos y presentación de experiencias (Por : Chitso Sakurai, Sun Chengzhi) 	<p style="text-align: center;">ほんじつ 本日の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 講義 <ul style="list-style-type: none"> ● 母語の重要性 ● バイリンガルの種類 ● バイリンガルに「関係する要素」 ● 二言語の「関係」 ● 成功事例 <ul style="list-style-type: none"> ● 「国際結婚」の場合 ● 「中国入家庭」の場合 ● 保護者ができること ● グループ別相談と経験談 (櫻井千穂、孫成志)

Distintos niveles alcanzados en bilingüismo

(Por : Nakajima, 2001)

Puede marchar con sola una rueda...



1 つの車輪で歩けるよ.....

Y sí puede también, con una rueda grande y otra pequeña...



大の車輪と小の車輪でもいよ.....

Perro con dos llantas balanceadas y bien infladas, podrá ir más lejos...



でも、車輪がバランスがとれていて、しっかりしてれば、もっと遠くまで行ける.....

...a menos que se quedem así, por supuesto.



でも、もちろんこうもダメだね.....

げんごとうたつど しゆるい 言語到達度の種類 (中島 2001 より)



1 つの車輪でも行けるよ.....



大きな車輪と小さな車輪でもいよ.....



でも、車輪がバランスがとれていて、しっかりしてれば、もっと遠くまで行ける.....



でも、もちろんこうもダメだね.....

Importancia de la lengua materna

- Lazos entre padres e hijos → Estabilidad emocional
- Fundamento de facultades como; aprender, pensar y reconocer
- Base de la identidad
- Garantía de la lengua materna como un derecho
- Opciones de lugar de domicilio en el futuro (Posibilidad de vivir en su país de origen)

ぼご じゅうようせい 母語の重要性

- おやこ かぞく きずな こころ あんてい
親子・家族の絆 → 心の安定
- まな ちから かんが ちから にんまりよく きそ
学ぶ力・考える力・認知力の基礎
- アイデンティティの基盤
- けんり ぼご ほんご
権利としての母語保証
- しよらひ きよじゆある せんたくし ぼこく す かのうせい
将来の居住地の選択肢(母国に住む可能性)

Factores relacionados a bilingüismo

- Circunstancias en el caso de un niño
 - La edad que tenía al venir a Japón (¿o si nació en Japón? / Si ha recibido enseñanza escolar en la lengua materna?)
 - Número de años de estadía en Japón
 - Nivel de la lengua materna
 - Experiencia de recibir enseñanza escolar en su país de origen u otro país)
 - Su carácter (sociable, hablador, prudente...)
 - Hermanos/as
- Circunstancias de los padres
 - Estado socioeconómico
 - Tiempo para dedicar a su hijo/a (calidad y cantidad)
 - Facultad de hablar (Capacidad para el idioma japonés)
 - Principios en educación, planes para el futuro
- Personas de su medioambiente
 - Abuelos del niño
 - Maestros de guardería, profesores de escuela y otras gente de la comunidad...

Cuatro habilidades del lenguaje y los tipos de bilingüismo

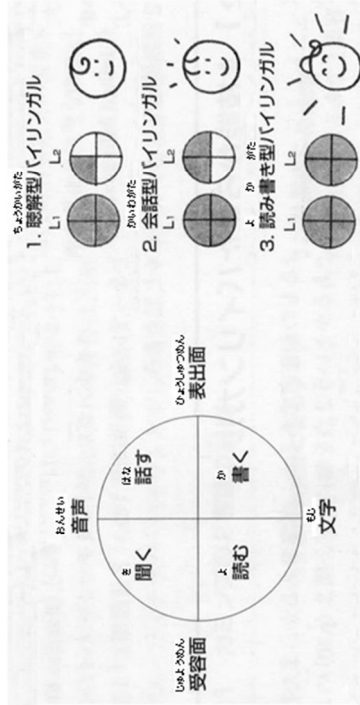


1. bilingüe que entiende por escuchar
2. bilingüe que sabe conversar
3. bilingüe que sabe leer y escribir

バイリンガルに関係する要素

- 子どもの状況
 - 日本に来た時の年齢 (日本生まれ/誕生日年齢: 母語での学校教育?)
 - 日本での滞在年数
 - 母語力のレベル (母国/外国での学校教育経験)
 - 性格 (外交的、話し好き、慎重...)
 - 兄弟姉妹
- 保護者の状況
 - 社会経済的状況
 - 子どもに聞ける時間(量)
 - 言語能力 (日本語力)
 - 教育方針、将来計画
- 周りの人々
 - 子どもの祖父母等
 - 保育士、学校教員、その他コミュニケーションの人々

言葉の4技能とバイリンガルの種類



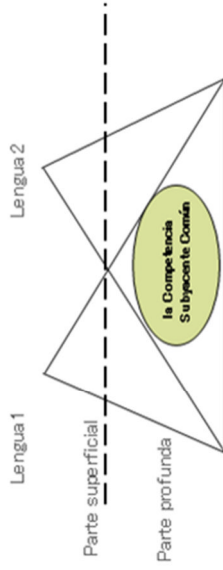
Caso que ha dado buen resultado (1)

- De familia de “matrimonio internacional”
- 4 años de edad.
Por ahora, bilingüe perfecta que sabe hasta leer y escribir.
- Padre japonés y madre taiwanesa.
- Lengua que se usa en casa
- Abuelos y parientes comprensivos
- Conversar en dos lenguas, + leer cuentos a ella en éstas.
- Vivienda

せいこうじれい 成功事例1

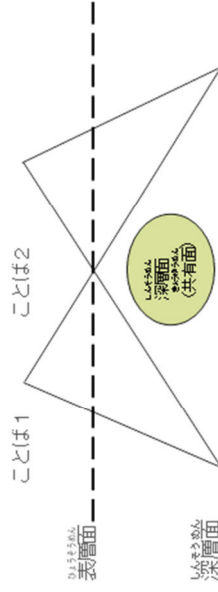
- 国際結婚家庭
よんさいじ げんざい かんぜんよ
4歳児で現在のところ完全読み書き型バイリンガル
- 父: 日本人 母: 台湾人
ちち にほんじん はは たいわんじん
- 家庭内言語
かていごいげんご
- 祖父母、親戚の理解
そふぼ しんせき りかい
- 2言語での会話+読み聞かせ
げんご かいわ しょ
2言語での会話+読み聞かせ
- 住居
じゅうきょ

Relación entre las dos lenguas



Teoría de iceberg (Cummins 1984)

にげんご かんけい 二言語の関係



しよせんごんご かんがいの
氷山説 (Cummins 1984)

Lo que pueden hacer los padres

- Reglas de los padres; “matrimonio internacional”: al hablar a su hijo/a, cada uno de la pareja debe usar una lengua, que es su respectiva lengua materna.
- Poner la mira en hacer a su hijo/a bilingüe, proporcionado (bilateral, alfabetizado en ambas lenguas). Saber leer y escribir le será una gran ventaja.
- Disponer de un ambiente para que su hijo/a pueda tener acceso a libros (informaciones escritas) en lengua materna.
- Comunicarse con su hijo/a en la lengua materna o la lengua que dominen cada uno de los padres con confianza en sí mismos.
- Conseguir la comprensión de la gente que les rodea (escuela etc.) sobre la importancia de la lengua materna.
- Aunque no sea perfecto, lo importante es “continuar”.

Caso que ha dado buen resultado (2)

- Alumna de escuela primaria, de familia china
- Nació en Japón
- Cuando estaba en primer grado, tenía problemas en ambas lenguas.
- Cuando estaba en quinto grado, se ha hecho bilingüe y sabe leer y escribir.
- Llegó a saber leer el chino por medio de subtítulos de programas de video y TV.
- Domina la lengua china y también esta mejorando su habilidad en el idioma japonés.

保護者ができること

- 国際結婚の場合の「一人一言語」のルール
- バランスバイリンガル(バイリテラル)を目指す(読み書きできると強い)
- 子どもが母語の本(文字情報)にアクセスできるようにする
- 親は自分の得意な言語で(得意な言語で)自信を持って子どもに伝える
- 母語の大切さについて、保護者、周りの人々(学校関係者等)の理解を得る
- 完璧でなくても、「継続」することが大切

成功事例2

- 中国人家庭の小学生
- 日本生まれ
- 小1での言語の問題
- 小5で2言語が読み書き型バイリンガルになった
- ビデオ・テレビ番組の「字幕」から中国語が読めるようになった
- 中国語が優勢で、日本語もアップ

アンケート 调查问卷

中国語

※今後のひまわり会の活動に役立てるためのアンケートにご協力をお願いします。
为帮助我们改进向日葵会今后的工作，请您配合填写此调查问卷。
※当てはまる項目 全部にチェックしてください。 请在所有符合的选项前打钩。

Q1 あなたの日本語の力はどうか？ 您的日语水平如何？

- 会話・読み書きともに不自由はない
会话・读写都没有问题
- 読み書きはだいたいできる
读写大体上可以
- 聞く・話すことはだいたいできる
听・说大体上可以
- 少しできる
仅会一点儿
- 日本語はほとんどわからない
日语几乎不怎么

Q2 この講演会を何で知りましたか？ 您是通过什么途径知道本次演讲会的？

- チラシ
宣传单
- 知り合いから
从朋友那里
- 日本語教室で
在日语教室那里
- 子どもの学校から
从孩子的学校那里
- その他 ()
从其他地方 ()

Q3 この講演会に参加した理由は何ですか？ 您参加本次演讲会的理由是什么？

- 子どもの言葉の問題について考えていたから
正在考虑有关孩子的语言问题
- 日本での子育てについて考えていたから
正在考虑在日本抚养子女的问题
- 専門の先生の話が聞けるから
可以从专家那儿获取信息
- 通訳が用意されているから
演讲会提供了翻译
- 子どもを預かってくれるから
可以替我们暂时照看孩子
- 参加しやすい場所だから
会场位置比较容易找到
- 無料だから
因为是免费的
- その他 ()
其他理由 ()

Q4 内容はどうか？ 您觉得今天的内容怎么样？

- とてもよかった
非常好
- よかった
不错
- やや不満がある
略有不满
- 不満である
不满意

その理由はなんですか？ (何語で書いてもいいです) 理由是什么呢？ (用哪种语言写都可以)

Q5 どんな講演や催しを希望しますか？ 您希望参加什么样的演讲会或活动呢？

ひまわり会は、幼児から高齢者までの日本語学習のサポートをしています。また、外国から来た人が参加できるイベントを企画しています。あなたはどんな講演や催しを希望しますか、あれば書いて下さい。

向日葵，支援从幼儿至老人的日语学习。另外，还在企划各类外国人朋友也可以参加的项目。您希望参加什么样的演讲会或活动呢？如果有的话，请写下来。

ご協力ありがとうございました。 谢谢您的配合！

アンケート **Bảng thăm dò ý kiến**

ベトナム語

※今後のひまわり会の活動に役立てるためのアンケートにご協力をお願いいたします。

※Xin quý vị vui lòng trả lời bảng thăm dò này giúp chúng tôi để cải thiện hoạt động của Hội Himawari sau này

※当てはまる項目 全部にチェックしてください。 ※Hãy đánh dấu tất cả những ô thích hợp.

Q1 あなたの日本語の力はどうか？ Khả năng tiếng Nhật của anh/chị là:

会話・読み書きともに不自由はない

Có thể nghe, nói, đọc, viết đầy đủ

読み書きはだいたいできる

Có thể đọc và viết tạm

聞く・話すことはだいたいできる

Có thể nghe và nói tạm

少しできる

Biết một chút

日本語はほとんどわからない

Hầu như là không biết tiếng Nhật

Q2 この講演会を何で知りましたか？ Anh/chị biết về buổi thuyết trình này bằng cách nào?

チラシ

Xem tờ quảng cáo

知り合いから

Nghe người quen nhắc đến

日本語教室で

Được giới thiệu ở lớp học tiếng Nhật

子どもの学校から

Được giới thiệu ở trường của con

その他 ()

Khác ()

Q3 この講演会に参加した理由は何ですか？ Anh/chị tham gia buổi thuyết trình này với lý do gì?

子どもの言葉の問題について考えていたから

Vì tôi đang lo về vấn đề ngôn ngữ của con cái

日本での子育てについて考えていたから

Vì tôi đang lo về việc nuôi dạy con ở Nhật Bản

専門の先生の話が聞けるから

Vì có thể nghe chuyên gia thuyết trình

通訳が用意されているから

Vì có người phiên dịch

子どもを預かってくれるから

Vì có người trông trẻ giúp khi tham gia

参加しやすい場所だから

Vì là nơi dễ tham dự

無料だから

Vì miễn phí

その他 ()

Khác ()

Q4 内容はどうでしたか Anh/chị cảm thấy nội dung buổi thuyết trình hôm nay như thế nào?

とてもよかった

Rất hay

よかった

Hay

やや不満がある

Không thỏa mãn lắm

不満である

Không thỏa mãn

その理由はなんですか？ (何語で書いてもいいです) Xin anh/chị cho biết lý do (Có thể viết bằng tiếng gì cũng được)

Q5 ひまわり会は、幼児から高齢者までの日本語学習のサポートをしています。また、外国から来た人が参加できるイベントを企画しています。あなたはどんな講演や催しを希望しますか、あれば書いてください。

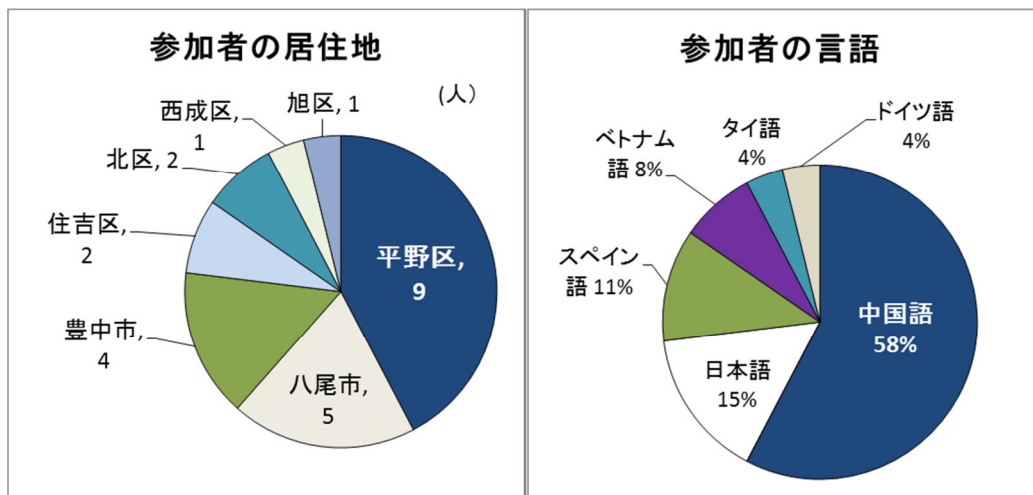
Hội hỗ trợ tiếng Nhật Himawari hỗ trợ những người học tiếng Nhật từ trẻ nhỏ đến người cao tuổi. Đồng thời cũng tổ chức những hoạt động để những người nước ngoài có thể tham gia. Anh/chị mong muốn có một buổi thuyết trình hoặc sự kiện như thế nào xin hãy viết ý kiến của mình ở phần dưới đây.

ご協力ありがとうございました。 Xin chân thành cảm ơn sự hợp tác của quý vị.

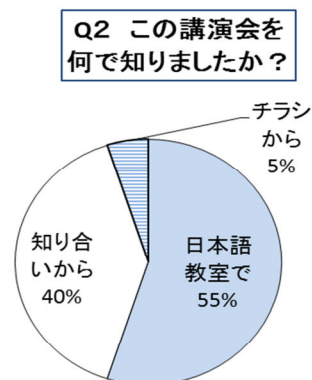
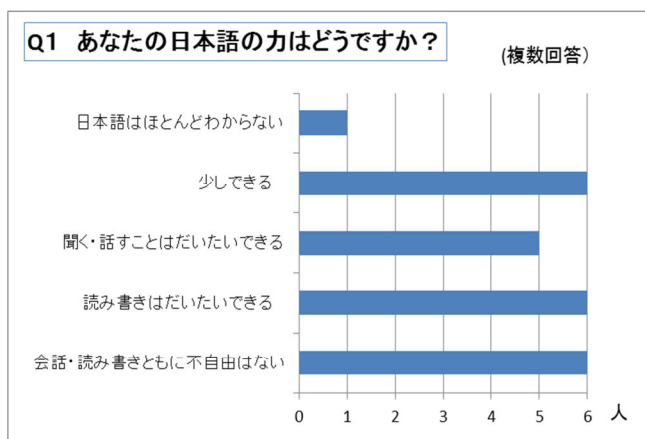
*スペイン語、タイ語はその場で通訳、説明して記入してもらった。

外国人保護者対象母語保持啓発講演会アンケートの結果(2014.7.6)

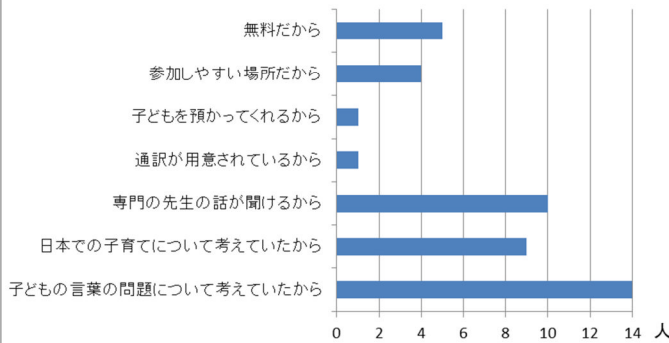
参加者総数26人、うち回答者は20人。回答率77%。保育児童17人。



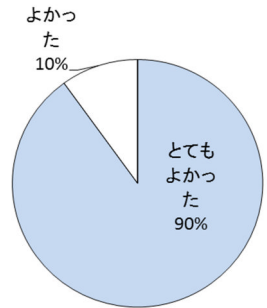
回答内容	Q1 あなたの日本語の力は どうですか？					Q2 この講演会を何 で知りましたか？					Q3 この講演会に参加した理由は何です か？					Q4 内容はどう でしたか？							
	に会話 不自由 はない	会話 できる	読み 書きは だいたい できる	聞く・ 話すこ とはだ いたい できる	少し できる	から ない	日本語 はほと んどわ からな い	日本語 教室で	知り 合い から	チラ シ から	子 ども の学 校 から	その 他	子 ども の言 葉の 問題 につ いて 考 えて いた から	日 本 で の 子 育 て に つ い て 考 えて いた から	専 門 の 先 生 の 話 が 聞 ける から	通 訳 が 用 意 さ れ て い る から	子 ども を 預 か っ て く る から	か ら 参 加 し や す い 場 所 だ から	無 料 だ か ら	その 他	と も よ か っ た	よ か っ た	や や 不 満 が あ る
小計	6	6	5	6	1	11	8	1	0	0	14	9	10	1	1	4	5	0	18	2	0	0	
%	30%	30%	25%	30%	5%	55%	40%	5%	0%	0%	70%	45%	50%	5%	5%	20%	25%	0%	90%	10%	0%	0%	



Q3 この講演会に参加した理由は何ですか？ (複数回答)



Q4 内容はどうでしたか



その理由

- ・子どもたちをバイリンガルに育てることができるとわかって、とてもよかった。
- ・今回の教室で、子どもと母語で話す機会を増やして、母語で話すことに興味を持たせたいと思いました。そして、どうしたら子どもが楽しく母語に触れるきっかけになるかのアドバイスも、参考になりました。
- ・今日の講演会を通じて、母語の重要性、そして子どものことばの力の育て方をはっきりと理解することができました。
- ・プログラムの内容はとてもよかったです。このプログラムを終え、子育てに関する考え方が変わりました。以前は私は二言語をミックスして子どもに話しかけていましたが、これからは二言語をはっきりと区別して教えることにし、母語を用いて子どもに話しかけるようにします。
- ・大変いい勉強になりました。ありがとうございました。
- ・成功事例1にあるように、お父さんが家で日本語だけ、お母さんが家で中国語だけで子どもに話し、それで4歳で完全読み書き型バイリンガルになっているお子さんがいるのを知り、同じように頑張ってみようという気持ちになりました。継続していくのがたいへんですが、頑張ります。すでに10歳になって遅いかもかもしれませんが、あきらめずに継続します。
- ・とても勉強になりました。ぜひ実践していきたいと思います。
- ・成功事例2を聞いて、子どもの母語教育について非常に励まされました。これからも長い目で教えていきます。
- ・先生の話聞いて、いろいろな気づきがありました。自分では思い至らないことを教えていただきました。また、あとでグループで他の人の経験が聞けたのもよかったです。
- ・示唆を与えていただいて、とてもよかったです。
- ・日本にいる中国人の両親と、毎月一回は会って話をするようにします。専門の先生のアドバイスが聞けて、とてもよかったです。
- ・普段の生活で、いろいろ間違っことをしていました。例えば、子どもに中国語と日本語を混ぜて使うのは間違いだとわかりました。また、ことばを教え込もうとするのではなく、ことばに興味を持たせるのがとても重要だということがわかりました。
- ・子どものことばが間違っているときにどうしたらいいか、子どもにどのような言語環境(雰囲気)を作ってやればいいのか、よくわかりました。
- ・またこういうお話を聞く機会が欲しいです。あれば、必ず参加します。

*母語で書かれたものは事務局で日本語に翻訳しました

母語保持教育講演会報告書

発行：2014年11月27日

編集：にはんごサポートひまわり会

連絡先：E-mail：himawarij1511@gmail.com

(ひまわり ジェイ 1511)

Tel：090-6676-5839
